

男鹿市
介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

調査結果報告書

平成29年9月
男鹿市

目 次

I	調査概要	1
1	調査の目的	1
2	調査の対象	1
3	調査の方法	1
4	調査の実施時期	1
5	配布・回収の結果	1
6	報告書の表記及び注意点について	2
II	調査結果	3
1	調査対象者の基本属性	3
(1)	調査票記入者	3
(2)	年齢	3
(3)	性別	4
(4)	地区	4
(5)	要介護度	5
2	家族や生活状況について	6
(1)	家族構成	6
(2)	普段、介護・介助が必要か	6
(3)	介護・介助が必要になった主な原因	7
(4)	主な介護者	8
(5)	現在の暮らしの状況	8
(6)	一戸建てか集合住宅か	9
3	からだを動かすことについて	10
(1)	日常の生活動作	10
(2)	運動器の機能低下について	12
(3)	転倒リスクについて	14
(4)	外出について	16
(5)	閉じこもり傾向について	17
(6)	外出回数	19
(7)	外出を控えているか	19
(8)	外出を控える理由	20
(9)	外出する際の移動手段	21
4	食 べ る こと に つ い て	22
(1)	本人の身長、体重	22
(2)	口腔・栄養	23
(3)	口腔機能の低下について	24
(4)	低栄養状態について	26
(5)	入れ歯について	28
(6)	噛み合わせについて	28
(6)	入れ歯の手入れ	29
(7)	どなたかと食事をとる機会があるか	29
5	毎日の生活について	30
(1)	物忘れについて	30
(2)	認知機能の低下について	31
(3)	日常生活の状況	33
(4)	IADLの低下について	34

(5) 日常生活の補助者について.....	36
(6) 社会参加の状況.....	37
(7) 趣味について.....	38
(8) 生きがいについて.....	38
6 地域での活動について.....	39
(1) グループ活動等の参加頻度.....	39
(2) 社会参加について.....	40
(3) 地域支援について.....	42
7 たすけあいについて.....	43
(1) 「たすけあい」について.....	43
(2) 家族や友人・知人以外の相談相手.....	44
(3) 友人関係について.....	44
8 健康について.....	46
(1) 健康状態について.....	46
(2) 現在どの程度幸せか.....	46
(3) こころの健康について.....	47
(4) うつ傾向について.....	48
(5) 飲酒について.....	50
(6) 喫煙について.....	50
(7) 治療中、または後遺症のある病気.....	51
(8) 長期療養の場所について.....	52
(9) 老後の終末期について.....	53
9 介護保険について.....	55
(1) 現在介護保険または総合事業のサービスを利用しているか.....	55
(2) サービス利用前後での健康状態の変化.....	55
(3) 介護保険のあり方について.....	56

I 調査概要

I 調査概要

1 調査の目的

本調査は、平成30年度から平成32年度を計画期間とする「老人福祉計画・介護保険事業計画」を策定するにあたり、市民の日常生活の状況、身体の状態、健康づくりに対する意識、福祉・介護保険事業に関する意見などをうかがい、計画づくりの参考資料とし活用するために実施した。

2 調査の対象

男鹿市に住む、介護保険の要介護認定（要介護1～5）を受けていない65歳以上を高齢者とし、無作為抽出した1,300名を対象としている。

3 調査の方法

郵送による配布・回収

4 調査の実施時期

平成29年6月～平成29年7月

5 配布・回収の結果

種 類	配布数	回収数	回収率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	1,300 件	938 件	72.2%

6 報告書の表記及び注意点について

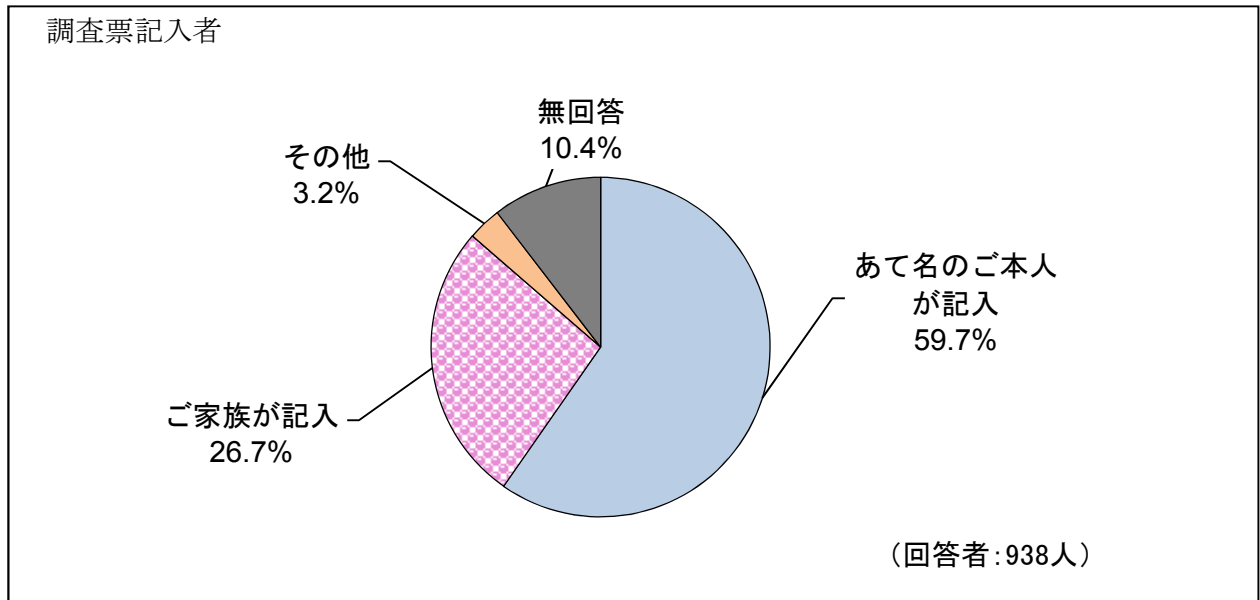
1. 回答は、各質問の回答該当者数を基数とした百分率（%）で示している。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合がある。
2. 複数回答を許している回答項目については、その項目に対して有効な回答をした者の数を基数として比率算出を行っているため、回答比率の合計は100.0%を超える場合がある。
3. 説明文及びグラフで、選択肢の語句を一部簡略化して表している。
4. グラフでは、その設問に対して回答することのできる対象者数を「回答者」と表記し、その数を表している。

Ⅱ 調査結果

Ⅱ 調査結果

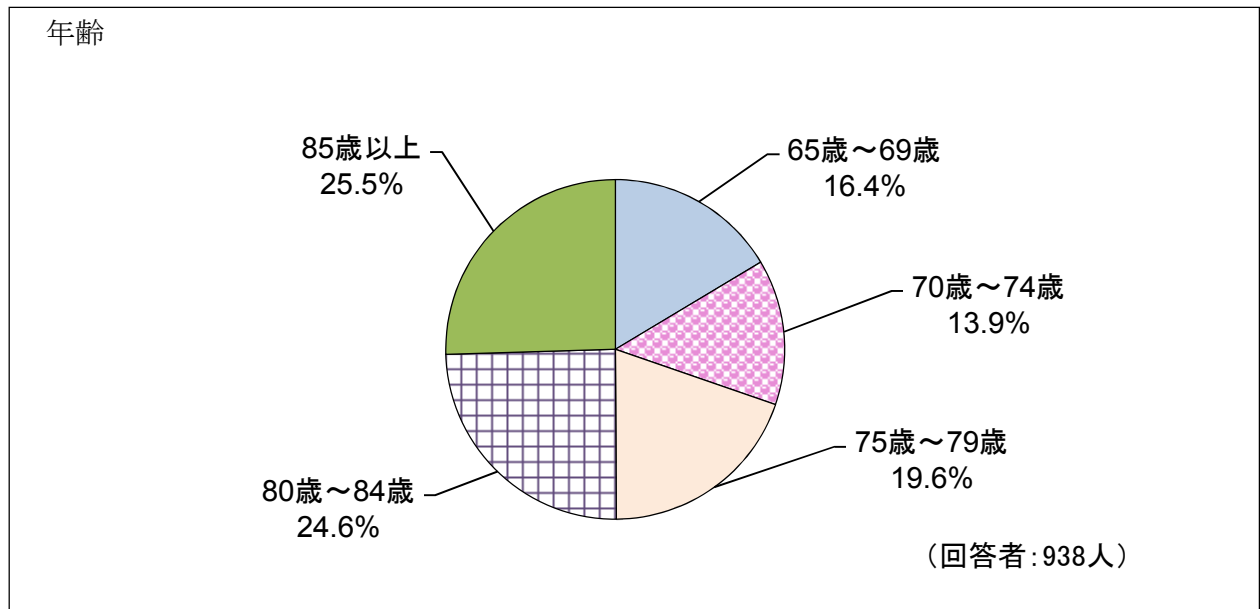
1 調査対象者の基本属性

(1) 調査票記入者



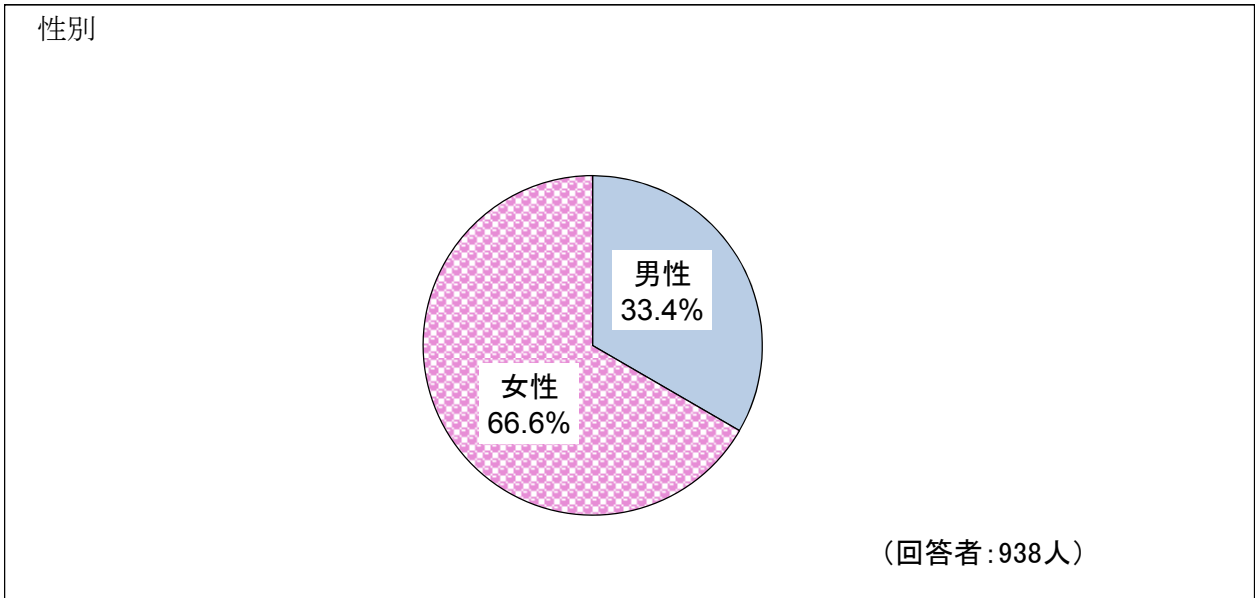
調査票の記入者は、「あて名のご本人が記入」が59.7%、「ご家族が記入」が26.7%となっている。

(2) 年齢



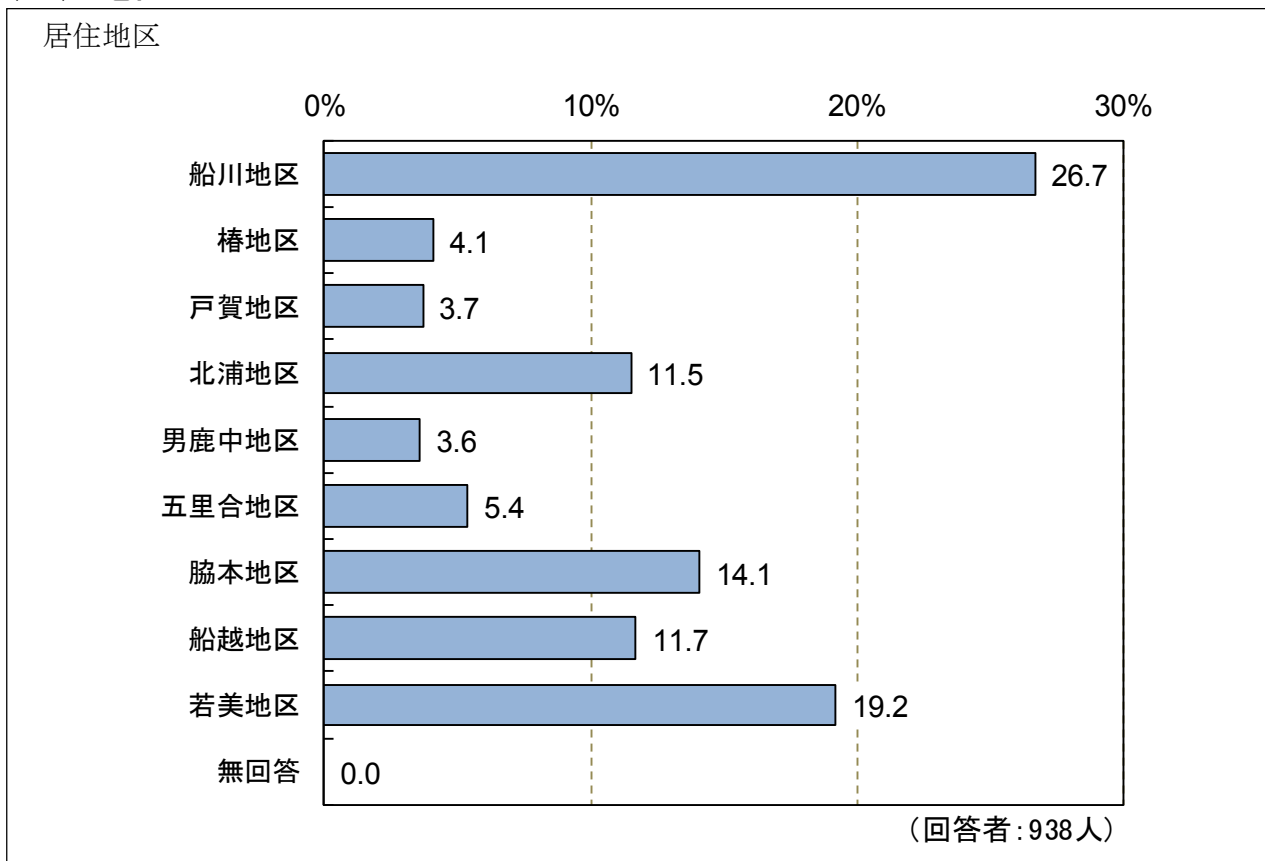
年齢は、「85歳以上」が25.5%で最も多く、次いで「80～84歳」(24.6%)、「75～79歳」(19.6%)、「65～69歳」(16.4%)、「70～74歳」(13.9%)となっている。

(3) 性別



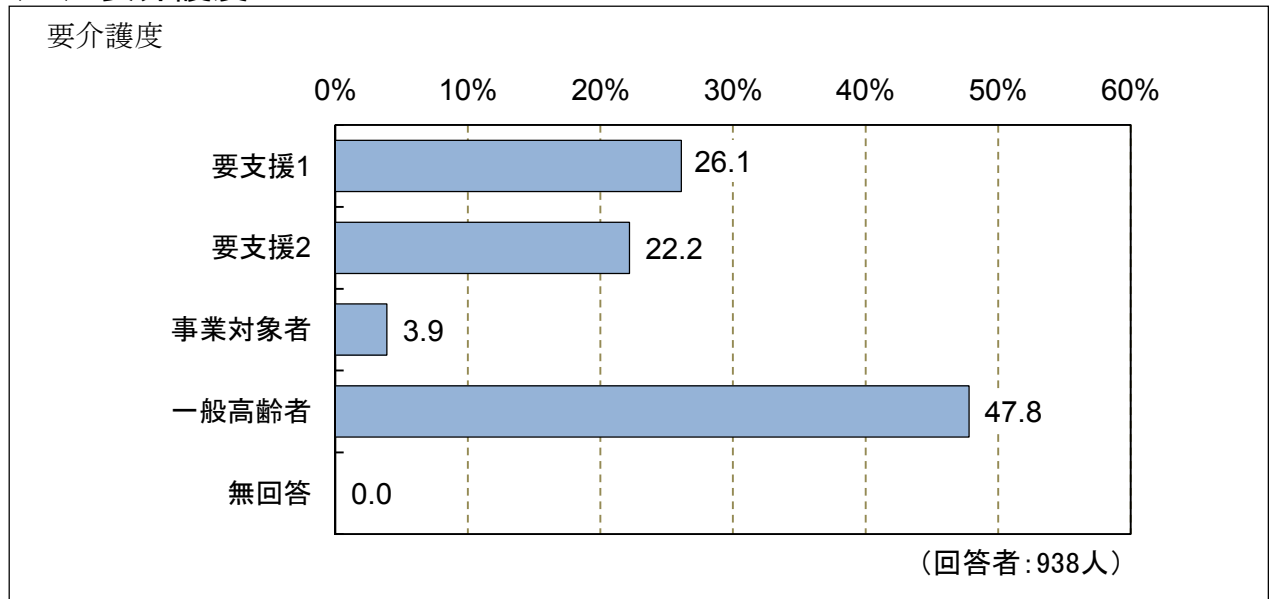
性別は、「男性」が33.4%、「女性」が66.6%となっている。

(4) 地区



居住地区は、「船川地区」が26.7%と最も多く、次いで「若美」(19.2%)、「脇本」(14.1%)と続いている。

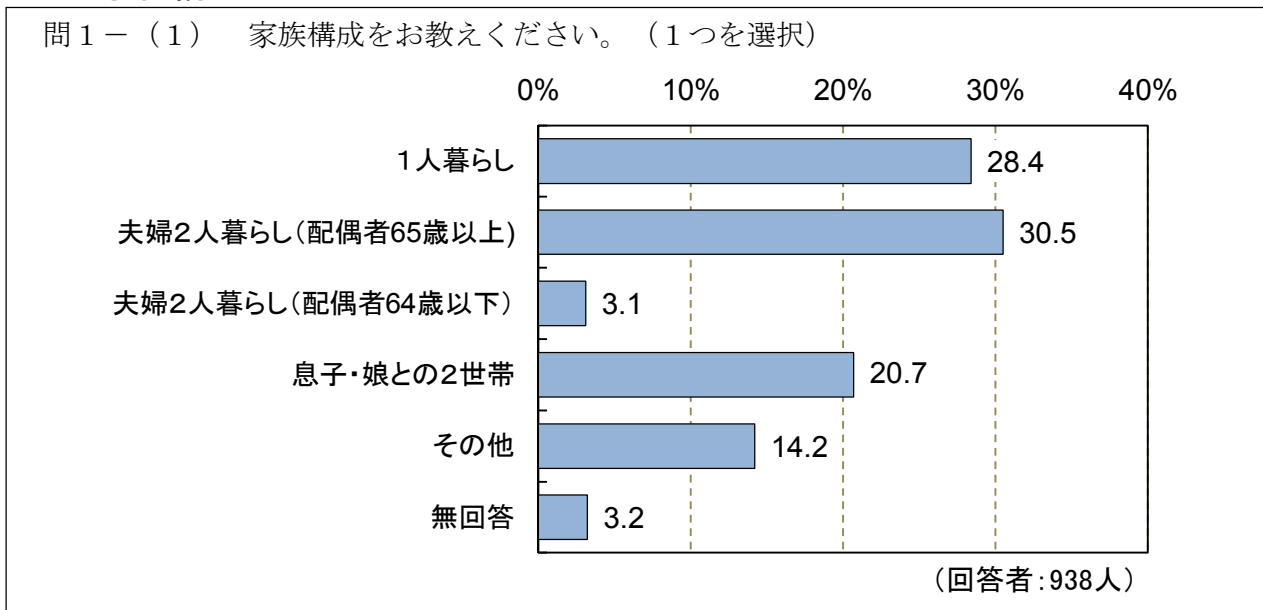
(5) 要介護度



要介護度は、「一般高齢者」が47.8%で、その他「要支援1」(26.1%)、「要支援2」(22.2%)、「事業対象者」(3.9%)となっている。

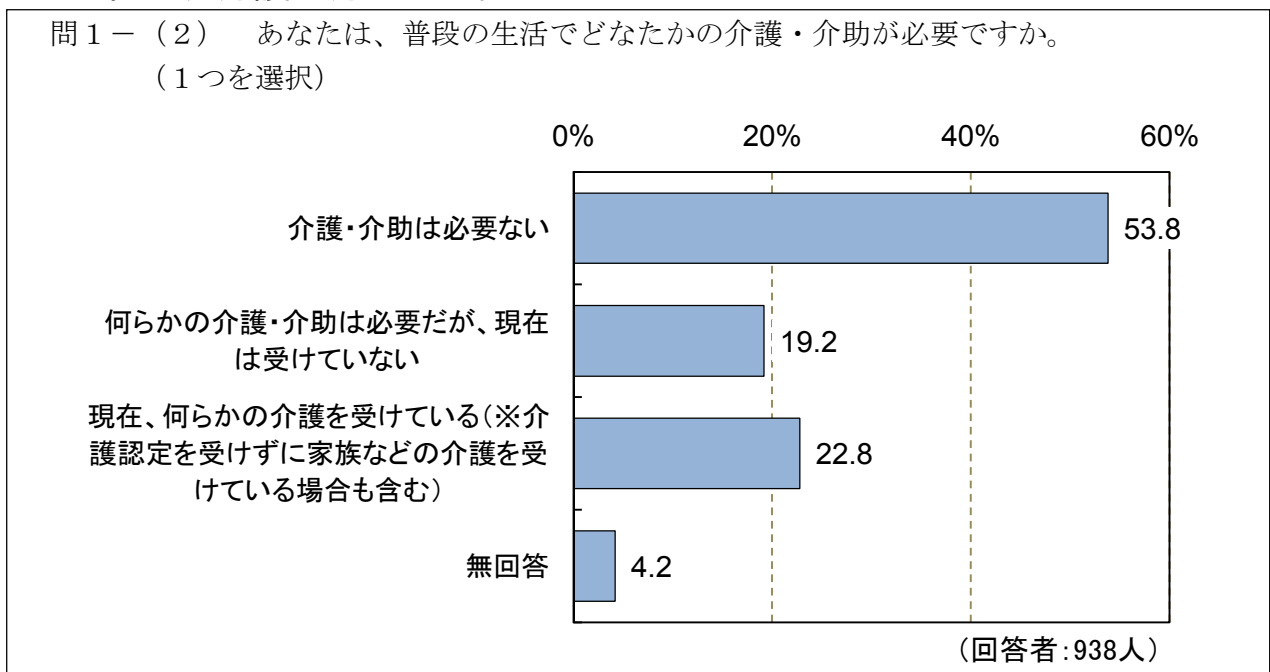
2 家族や生活状況について

(1) 家族構成



家族構成は、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が30.5%と最も多く、次いで「1人暮らし」(28.4%)、「息子・娘との2世帯」(20.7%)、「夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)」(3.1%)となっている。

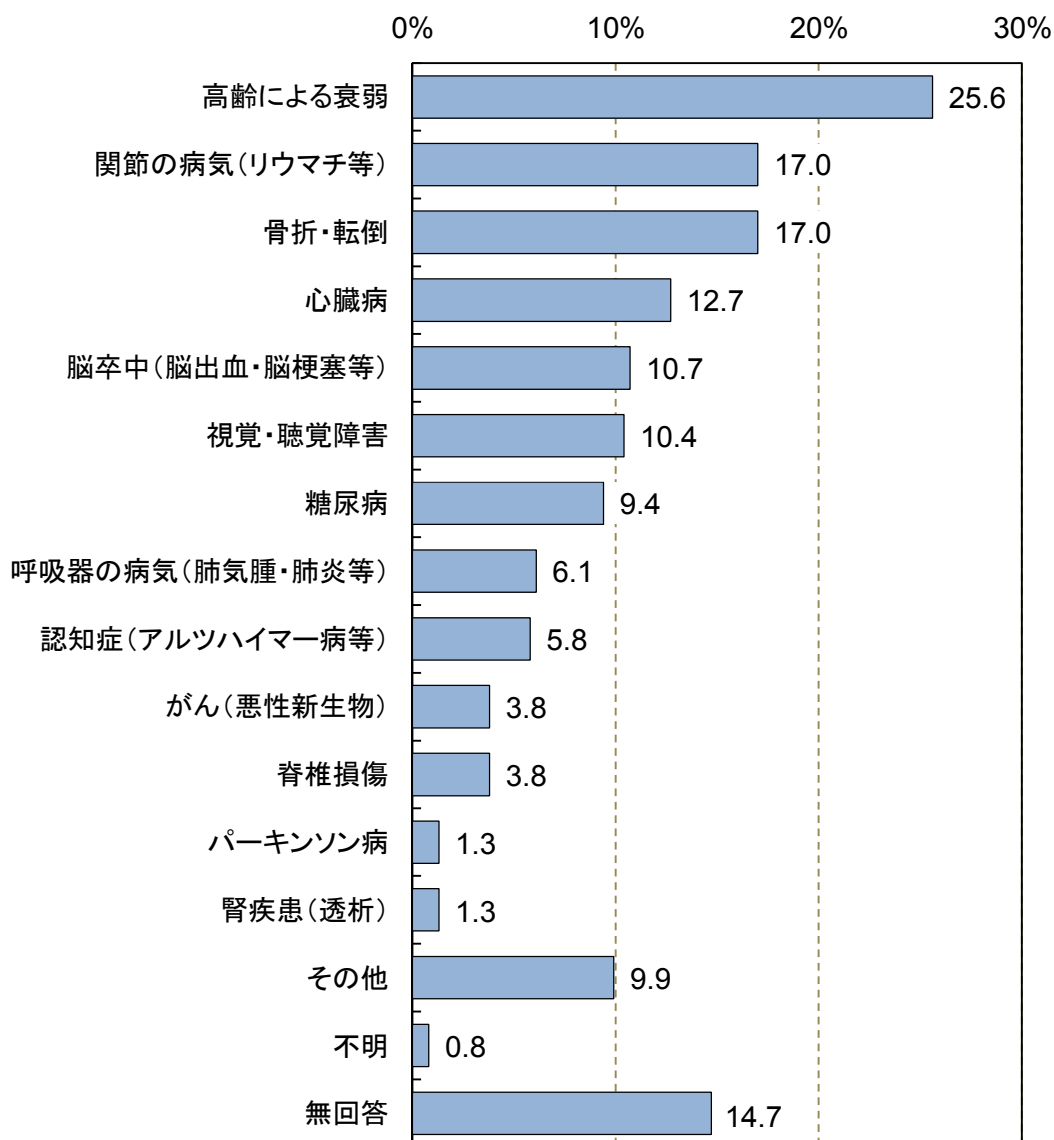
(2) 普段、介護・介助が必要か



普段の生活で介護・介助が必要かでは、53.8%が「介護・介助は必要ない」と回答している。その他「現在、何らかの介護を受けている(※介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)」(22.8%)、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」(19.2%)となっている。

(3) 介護・介助が必要になった主な原因

問1－(2)－① 【(2)において「1. 介護・介助は必要ない」以外の方のみ】
介護・介助が必要になった主な原因はなんですか。(いくつでも)

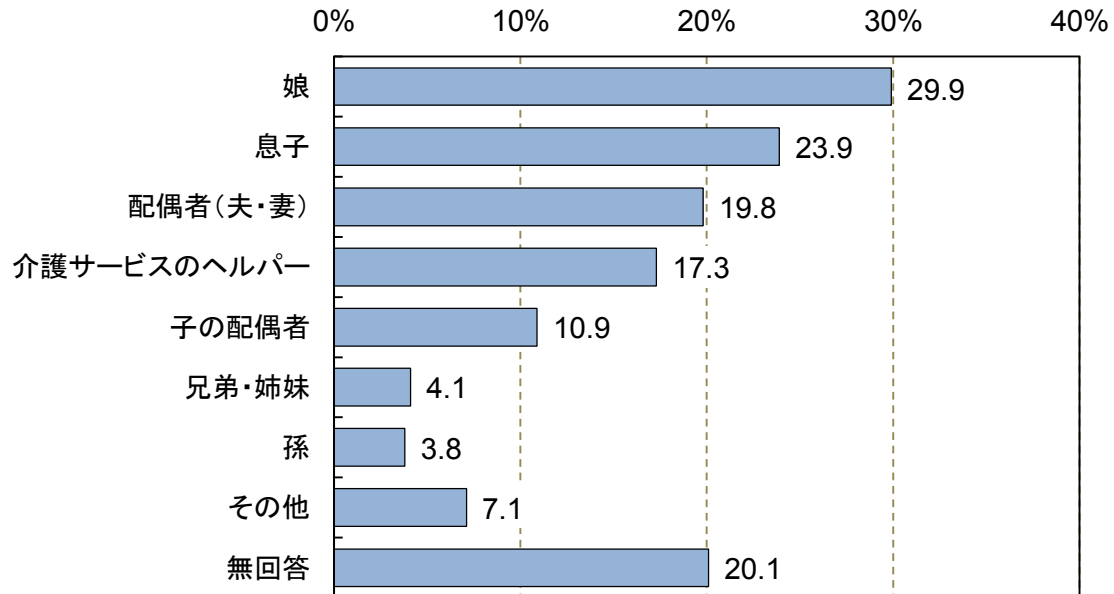


(回答者:394人)

問1－(2)で「2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」、「3. 現在、何らかの介護を受けている」と回答した394人に、介護・介助が必要になった原因を尋ねると、「高齢による衰弱」が25.6%で最も多く、次いで「関節の病気(リウマチ等)」、「骨折・転倒」(ともに17.0%)、「心臓病」(12.7%)と続いている。

(4) 主な介護者

問1－(2)－② 【(2)において「1. 介護・介助は必要ない」以外の方のみ】
主にどなたの介護、介助を受けていますか。(いくつでも)

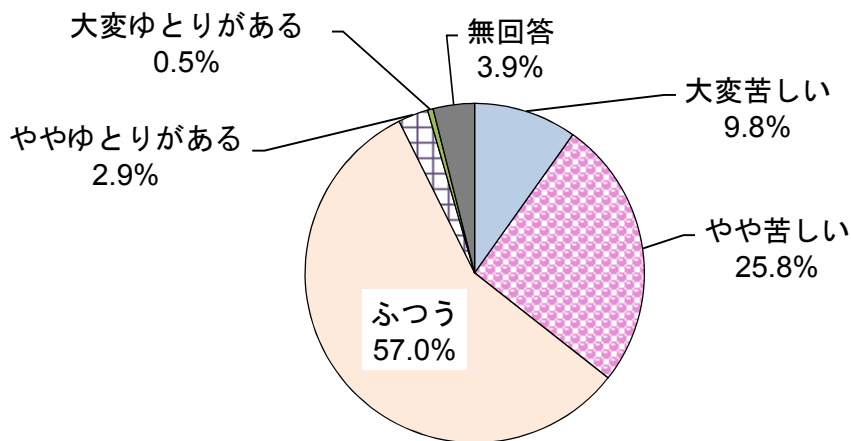


(回答者:394人)

問1－(2)で「2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」、「3. 現在、何らかの介護を受けている」と回答した394人に、主な介護者・介助者を尋ねると、「娘」が29.9%で最も多く、次いで「息子」(23.9%)、「配偶者(夫・妻)」(19.8%)と続いている。

(5) 現在の暮らしの状況

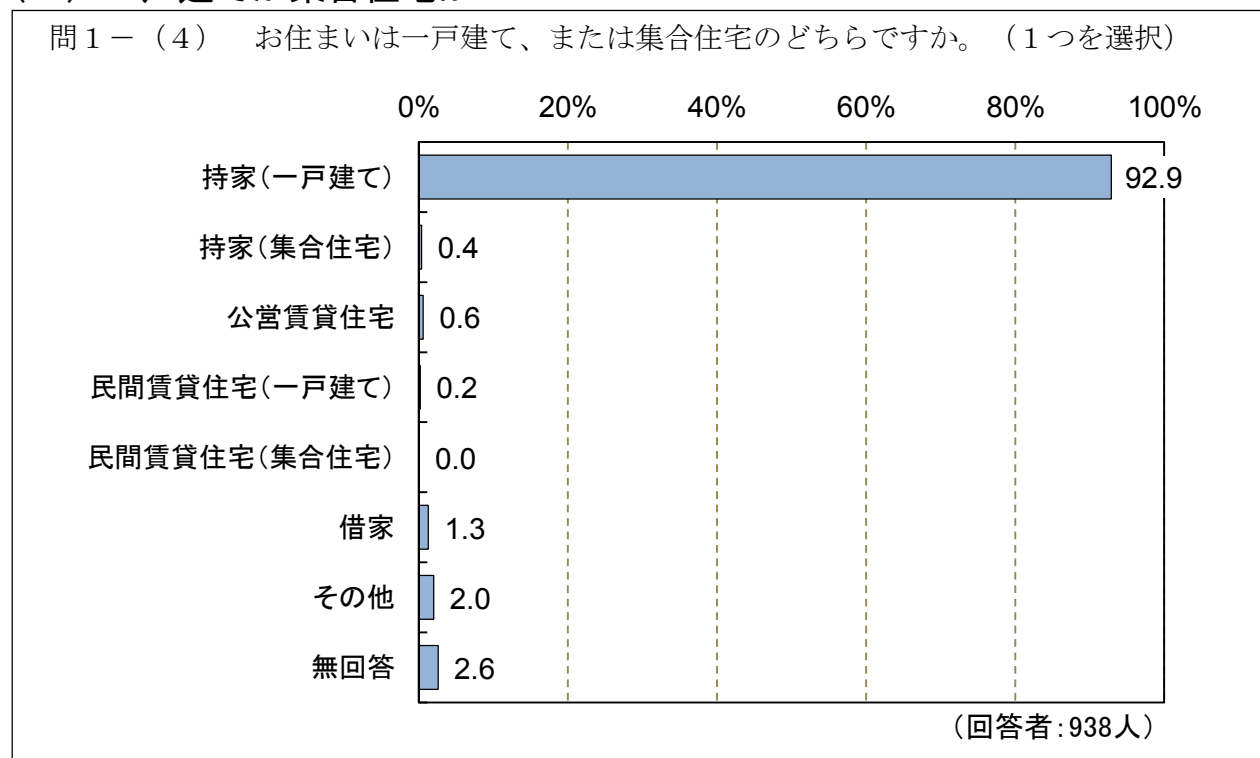
問1－(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(1つを選択)



(回答者:938人)

現在の暮らしの状況では、「ふつう」という回答が57.0%で最も多くなっている。
また、「やや苦しい」(25.8%)、「大変苦しい」(9.8%)を合わせると、35.6%が苦しいと回答している。

(6) 一戸建てか集合住宅か

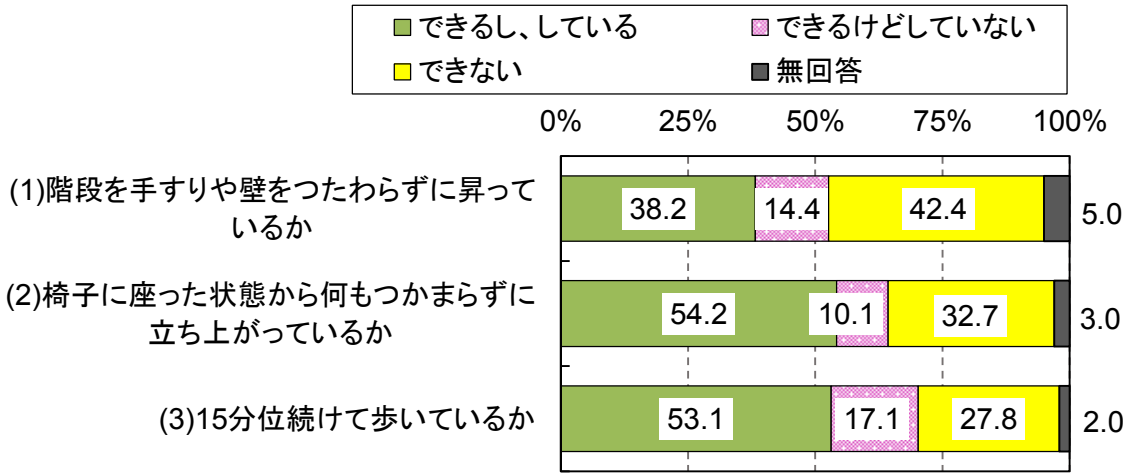


一戸建てか集合住宅かについては、「持家(一戸建て)」が92.9%と圧倒的に多くなっている。

3 からだを動かすことについて

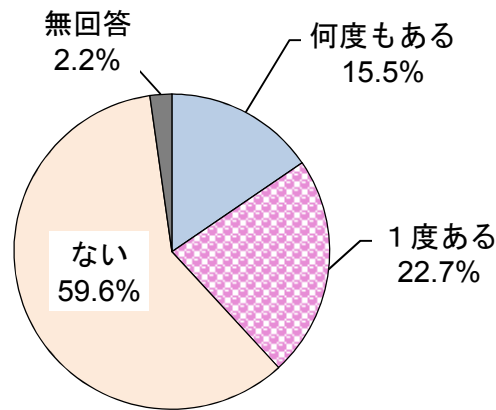
(1) 日常の生活動作

問2－(1)～(3) 日常の生活動作について。(それぞれ1つ)



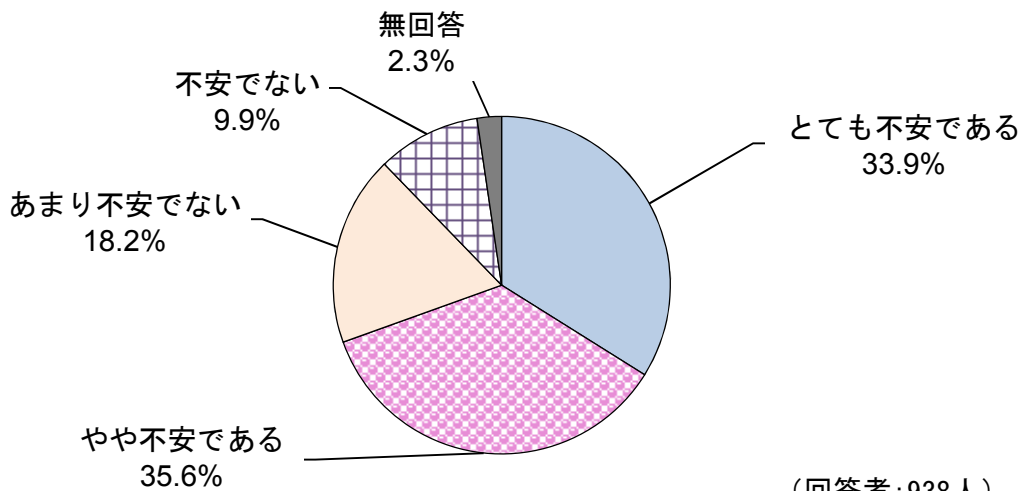
(回答者:938)

問2－(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか。(1つを選択)



(回答者:938人)

問2－(5) 転倒に対する不安は大きいですか。(1つを選択)



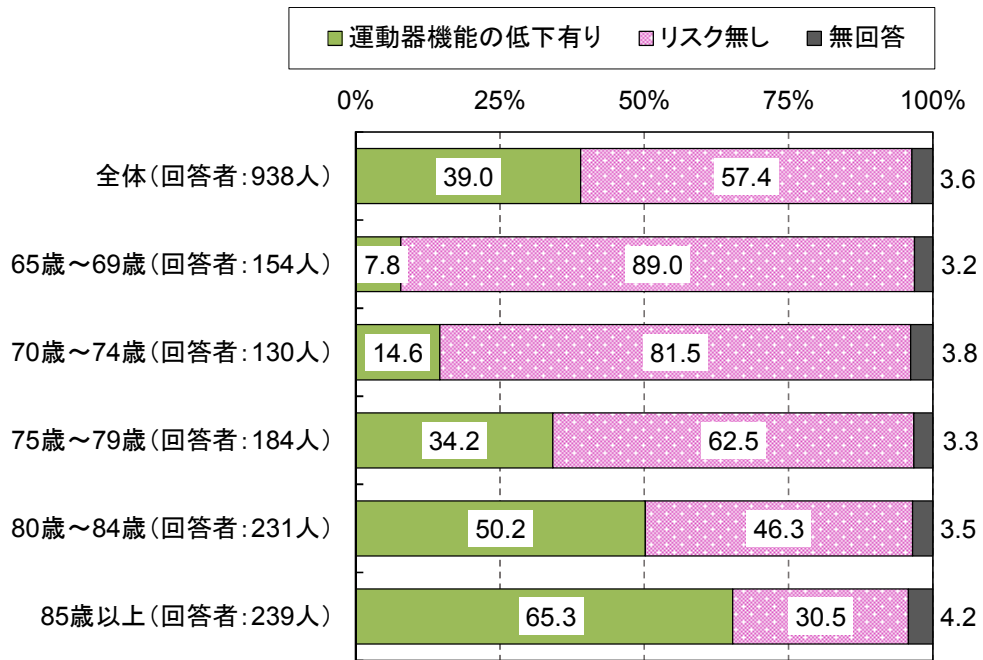
(回答者:938人)

問2－(1)～(5)は運動器の機能低下を問う設問です。各項目の該当割合は、「(1)階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか」(42.4%：「できない」)、「(2)椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか」(32.7%：「できない」)、「(3)15分位続けて歩いているか」(27.8%：「できない」)、「(4)過去1年間に転んだ経験があるか」(15.5%：「何度もある」、22.7%：「1度ある」)、「(5)転倒に対する不安は大きいか」(33.9%：「とても不安である」、35.6%「やや不安である」)となっており、これらの設問で、3問以上該当すると、運動機能が低下していると判定される。

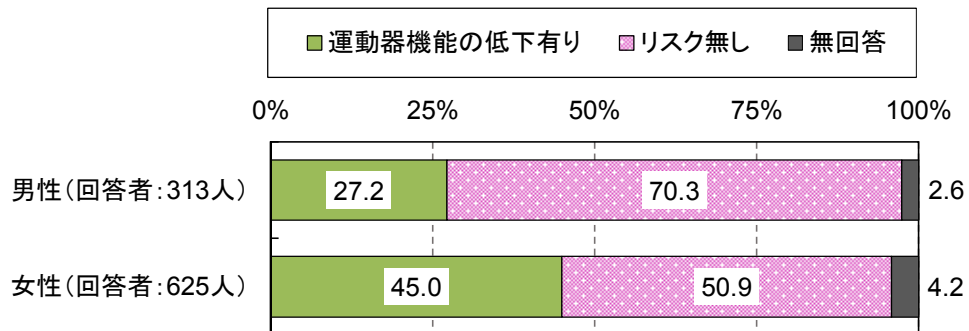
また、「過去1年間に転んだ経験があるか」において(15.5%：「何度もある」、22.7%：「1度ある」)と回答した場合は、転倒リスクがあると判定される。

(2) 運動器の機能低下について

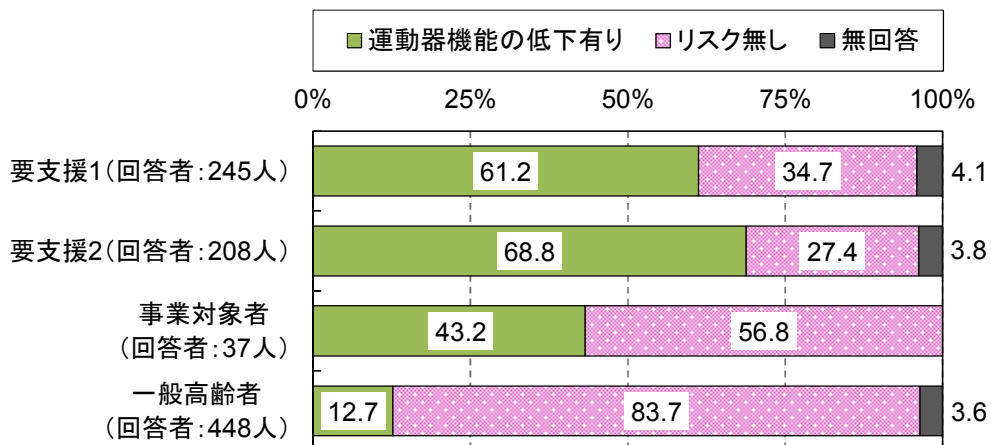
● 年齢別運動器の機能低下状況



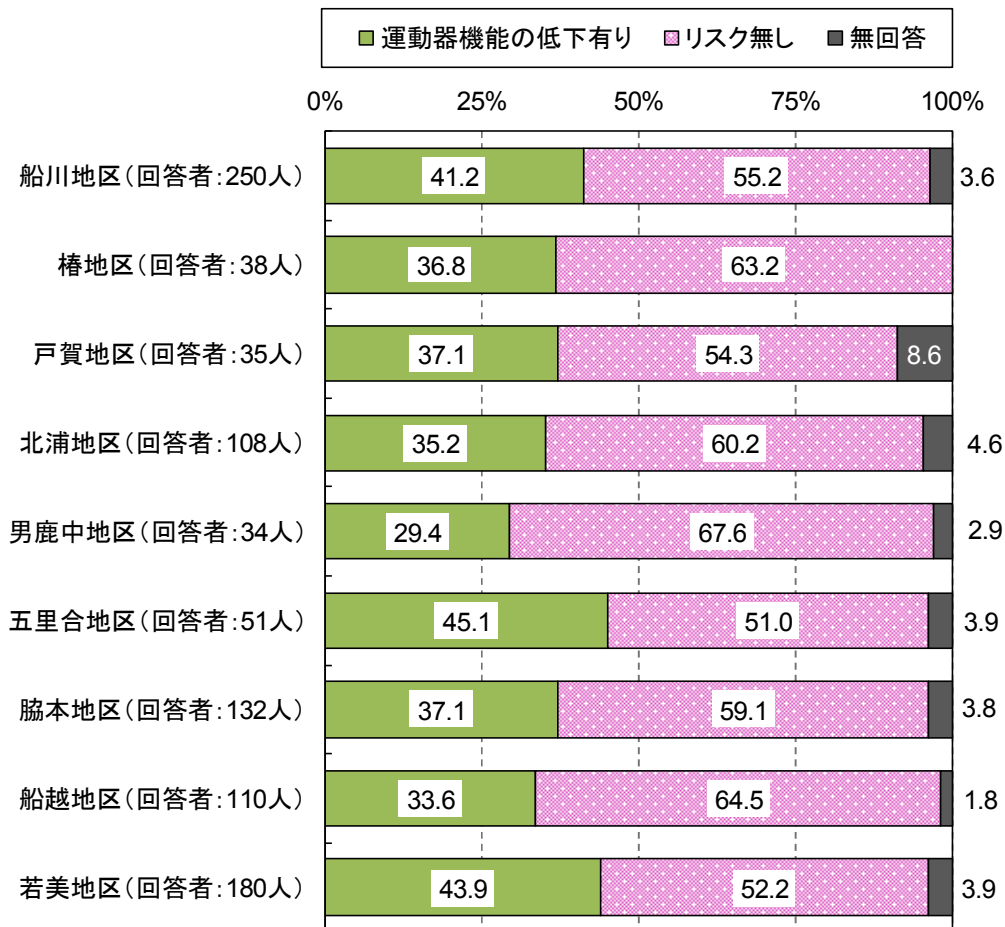
● 男女別運動器の機能低下状況



● 認定状況別運動器の機能低下状況



●居住地区別運動器の機能低下状況



運動器の機能低下は、全体の39.0%が該当者となっている。

年齢別では、年齢が上がるにつれ該当者が多くなり、85歳以上の65.3%が該当者となっている。

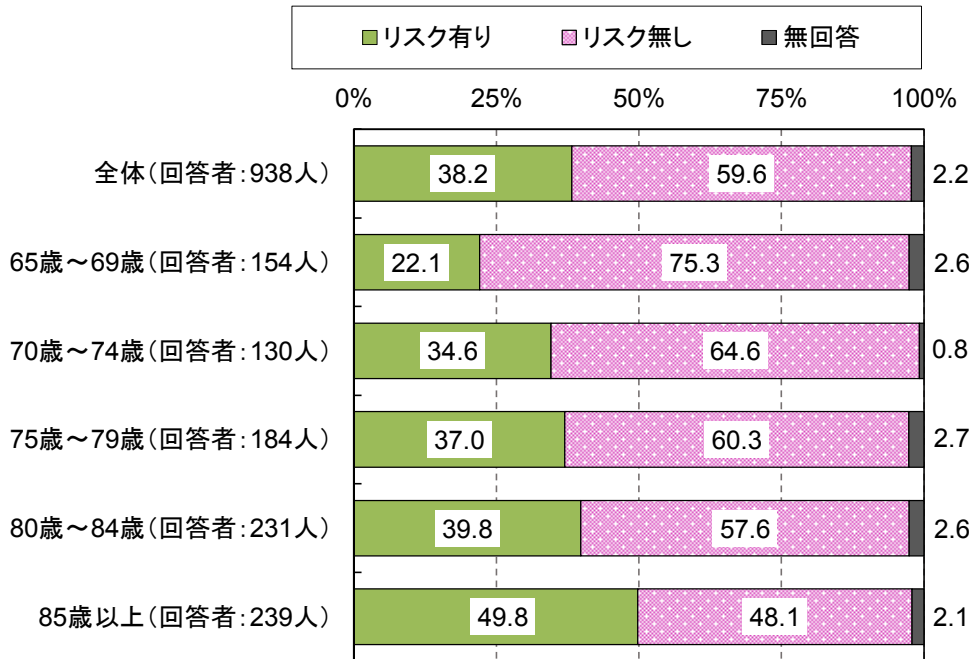
男女別では、「男性」の27.2%、「女性」の45.0%が該当者となっており、女性に該当者が多くなっている。

認定状況別では、一般高齢者の12.7%が該当者となっている。

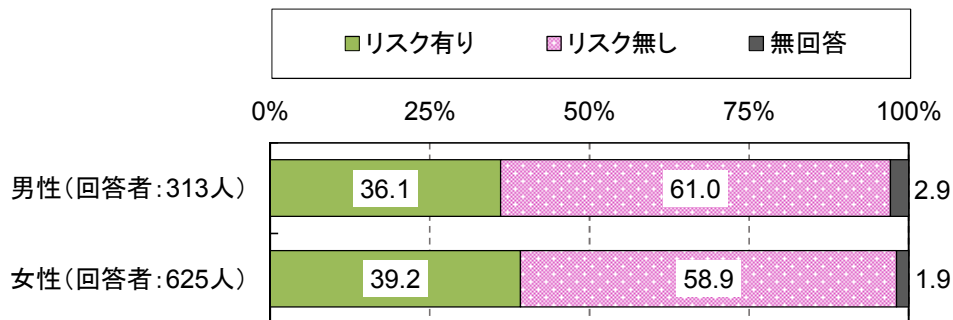
居住地区別では、「五里合地区」の該当者割合が45.1%で最も多く、「若美地区」(43.9%)、「船川地区」(41.2%)と続いている。

(3) 転倒リスクについて

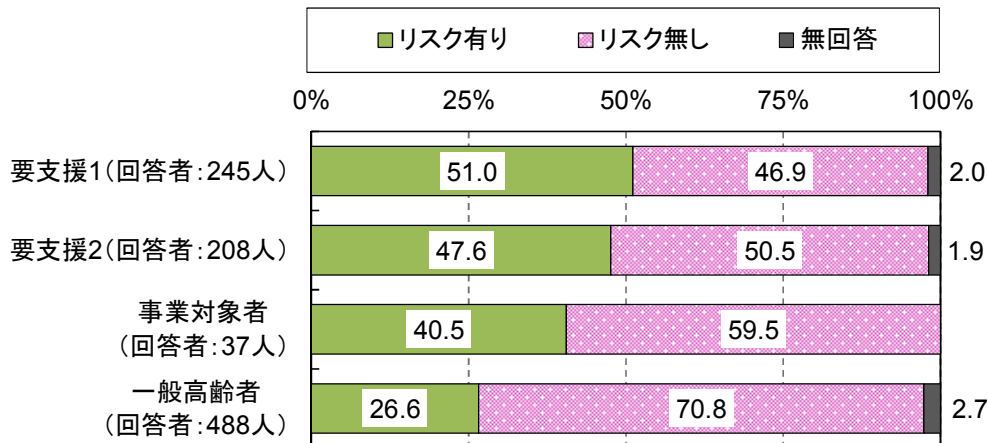
● 年齢別転倒リスク状況



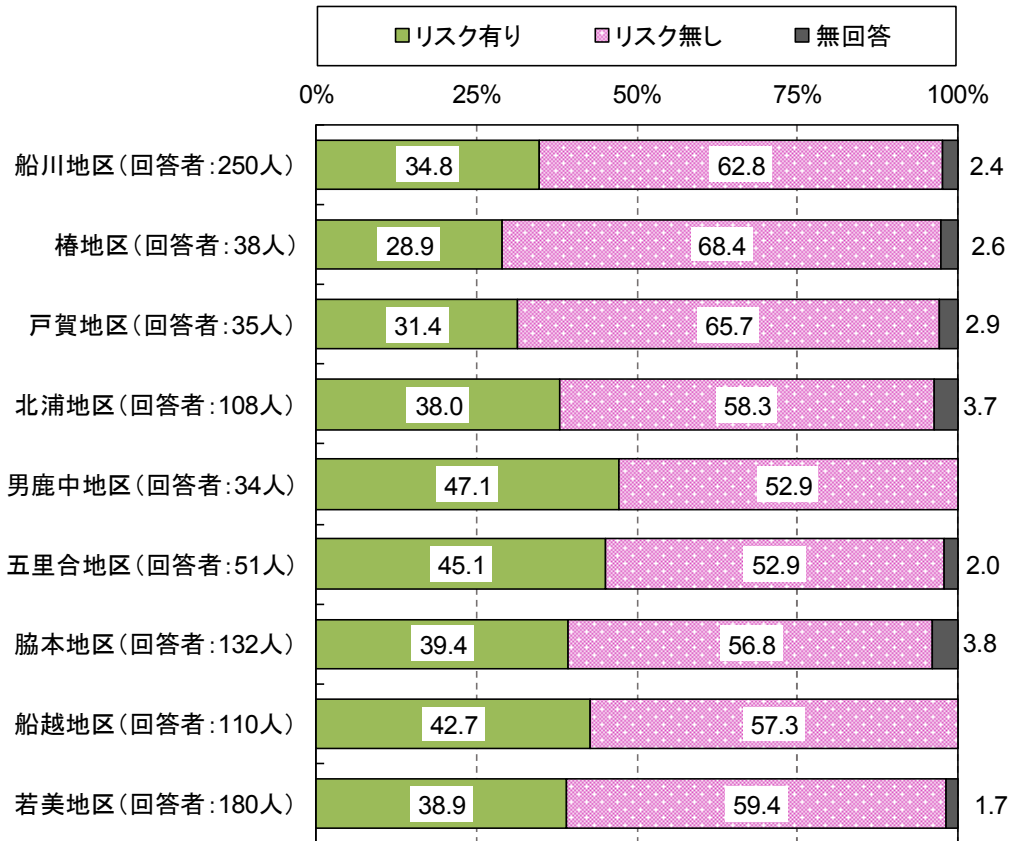
● 男女別転倒リスク状況



● 認定状況別転倒リスク状況



●居住地区別転倒リスク状況



転倒リスクは、全体の38.2%が該当者となっている。

年齢別では、年齢が上がるにつれ該当者が多くなり、85歳以上の49.8%が該当者となっている。

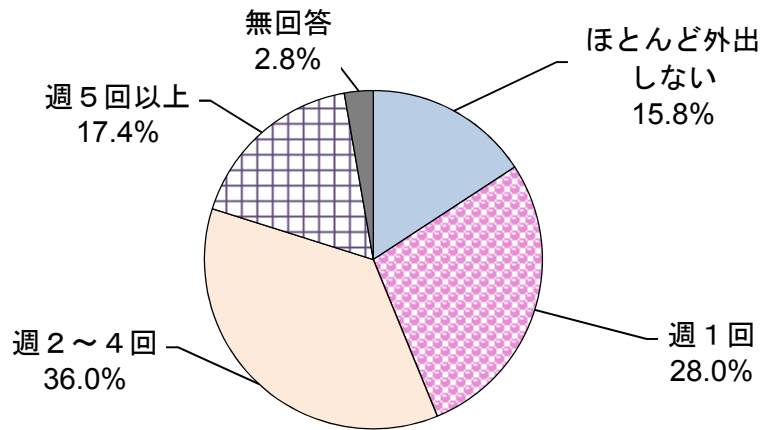
男女別では、「男性」の36.1%、「女性」の39.2%が該当者となっており、女性に該当者が多くなっている。

認定状況別では、一般高齢者の26.6%が該当者となっている。

居住地区別では、「男鹿中地区」の該当者割合が47.1%で最も多く、「五里合地区」(45.1%)、「船越地区」(42.7%)と続いている。

(4) 外出について

問2-(6) 週に1回以上は外出していますか。(1つを選択)

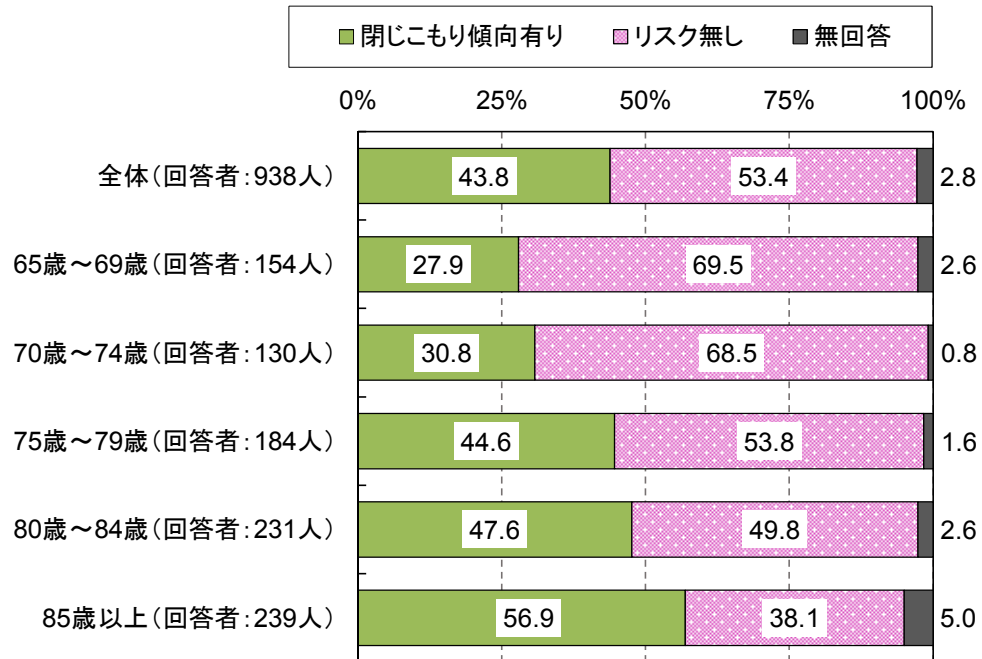


(回答者:938人)

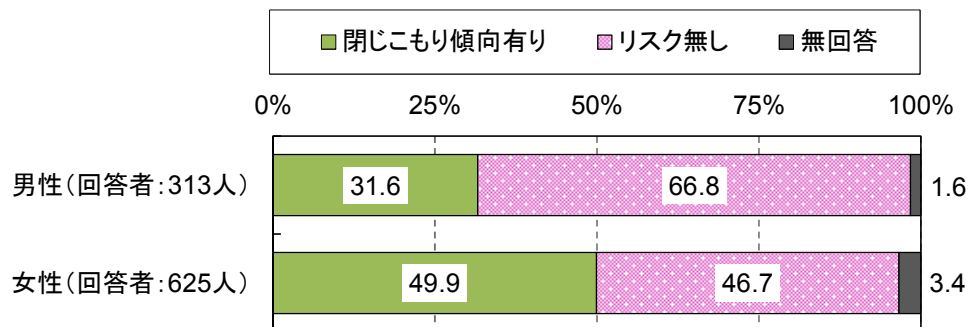
問2-(6)は、閉じこもり傾向を問う設問です。「週に1回以上は外出しているか」において(15.8%:「ほとんど外出しない」、28.0%:「週1回」と回答した場合は、閉じこもりリスクがあると判定される。

(5) 閉じこもり傾向について

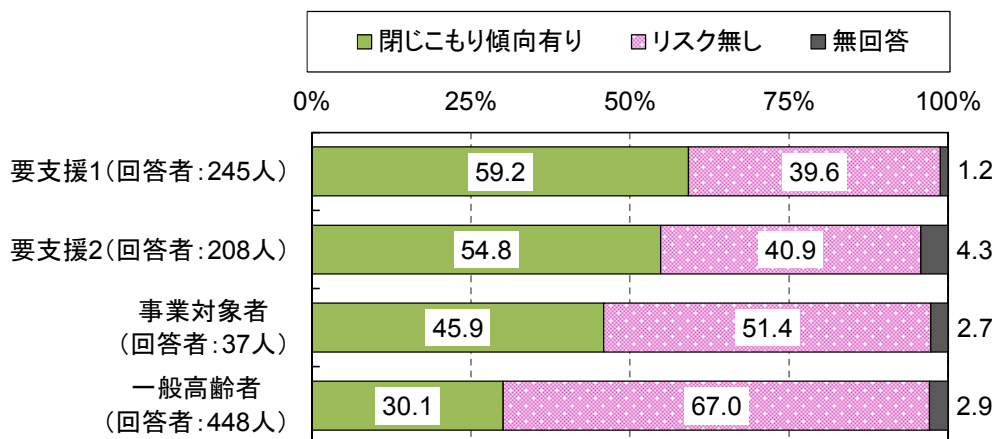
●年齢別閉じこもり傾向



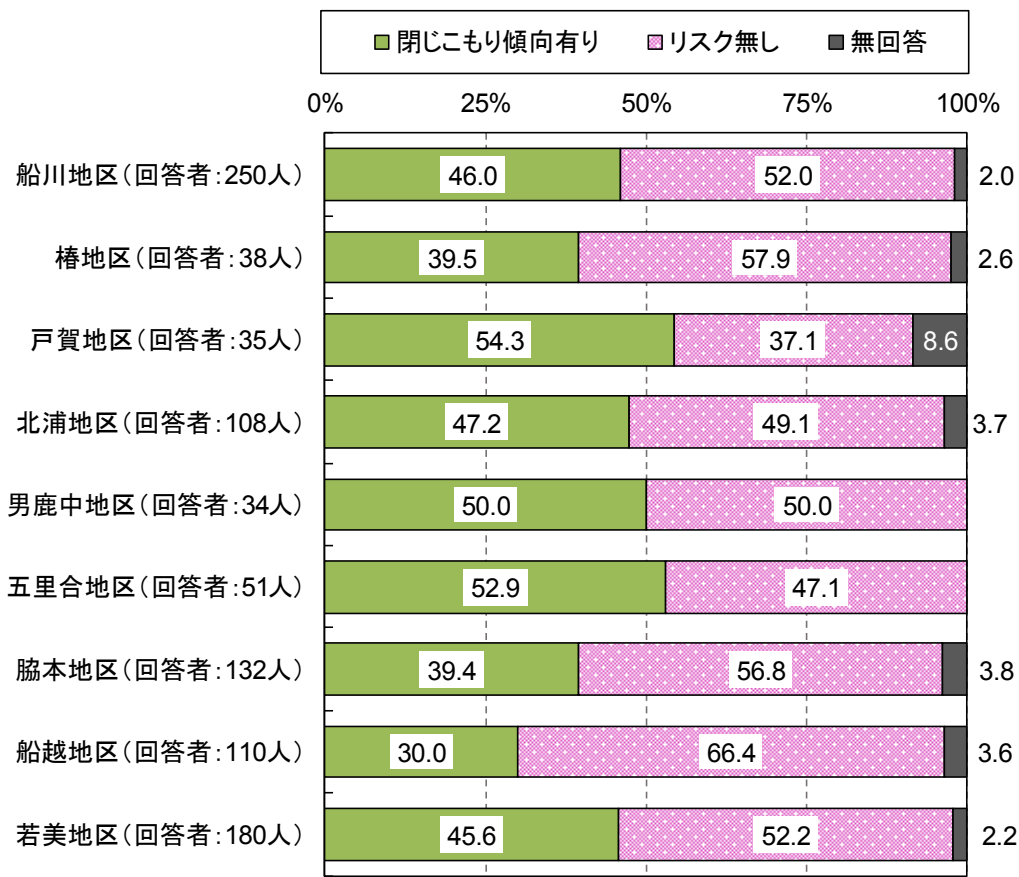
●男女別閉じこもり傾向



●認定状況別閉じこもり傾向



●居住地区別閉じこもり傾向



閉じこもり傾向は、全体の43.8%が該当者となっている。

年齢別では、年齢が上がるにつれ該当者が多くなり、85歳以上の56.9%が該当者となっている。

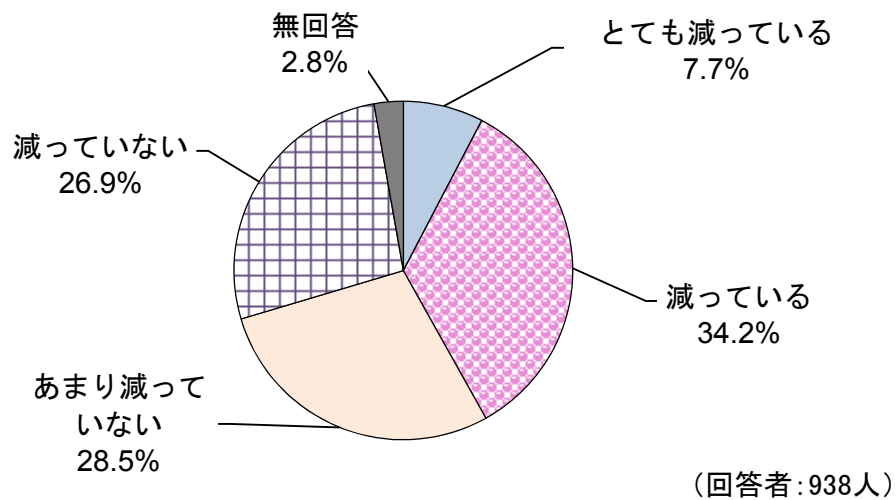
男女別では、「男性」の31.6%、「女性」の49.9%が該当者となっており、女性に該当者が多くなっている。

認定状況別では、一般高齢者の30.1%が該当者となっている。

居住地区別では、「戸賀地区」の該当者割合が54.3%で最も多く、「五里合地区」(52.9%)、「男鹿中地区」(50.0%)と続いている。

(6) 外出回数

問2-(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(1つを選択)

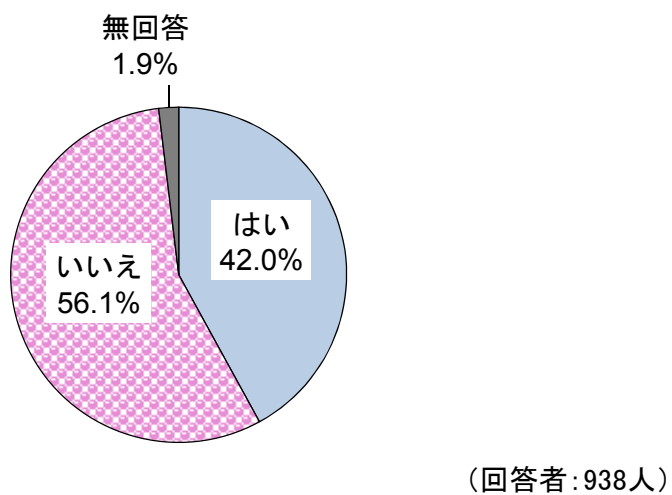


昨年と比べて外出の回数が減っているかは、「とても減っている」(7.7%)、「減っている」(34.2%)を合わせると、41.9%が減っていると回答している。

また、「減っていない」(26.9%)、「あまり減っていない」(28.5%)を合わせると、55.4%が減っていないと回答している。

(7) 外出を控えているか

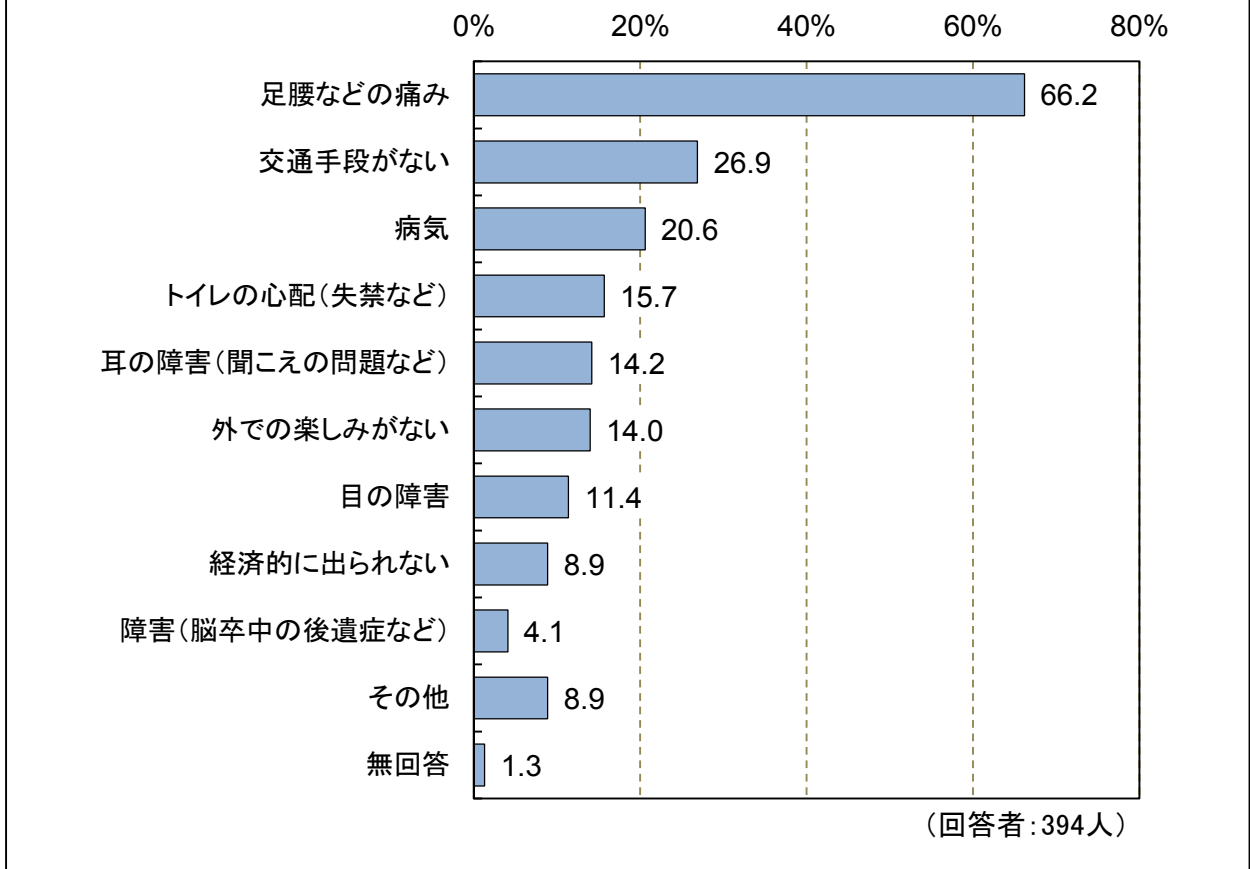
問2-(8) 外出を控えていますか。(1つを選択)



外出を控えているかは、「はい」が42.0%、「いいえ」が56.1%となっている。

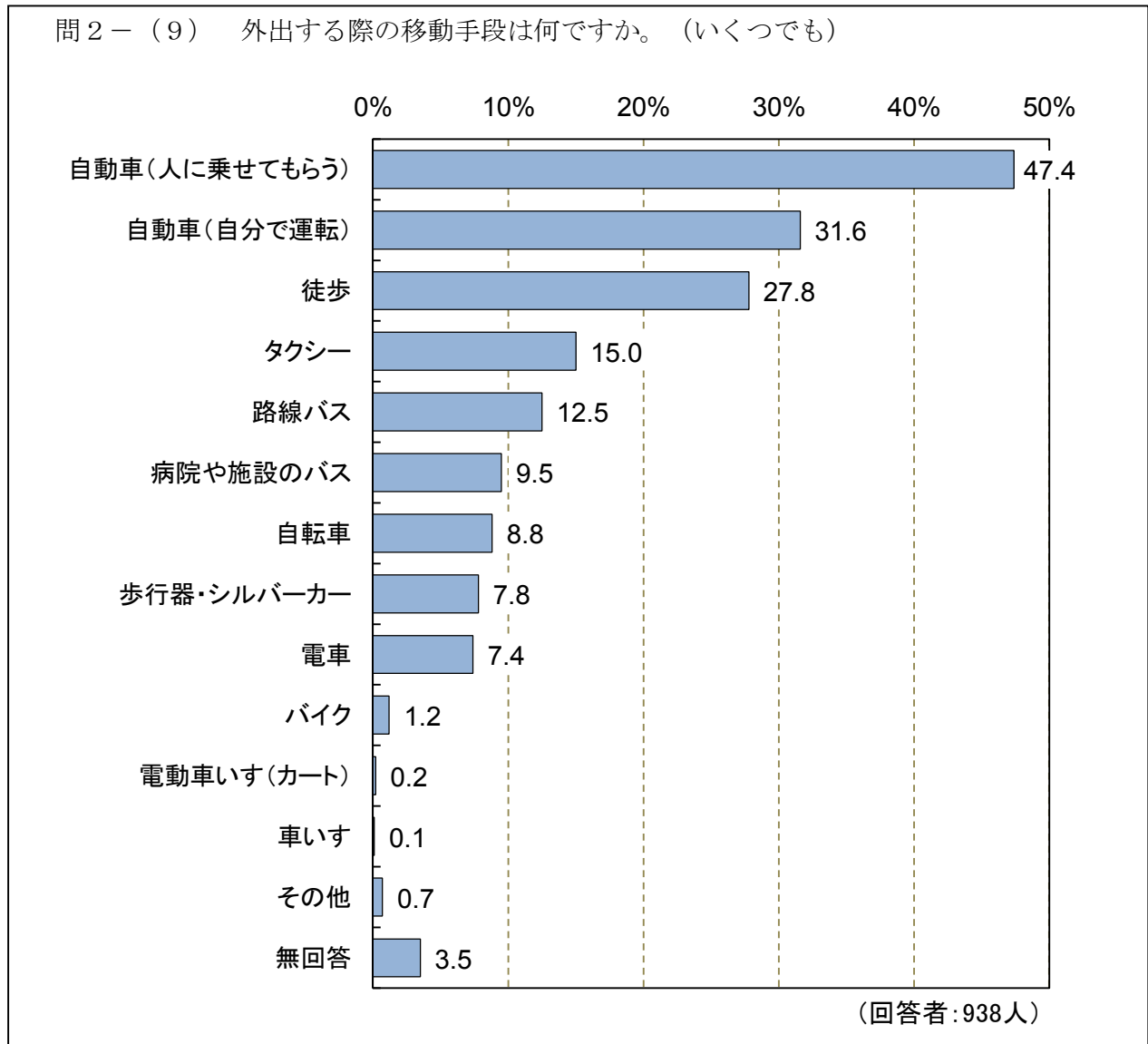
(8) 外出を控える理由

問2-(8)-① 【(8)で「1. はい」(外出を控えている)の方のみ】
 外出を控えている理由は、次のどれですか。(いくつでも)



(8)で外出を控えていると回答した394人に、その理由を尋ねたところ、「足腰などの痛み」が66.2%と最も多く、次いで「交通手段がない」(26.9%)、「病気」(20.6%)と続いている。

(9) 外出する際の移動手段



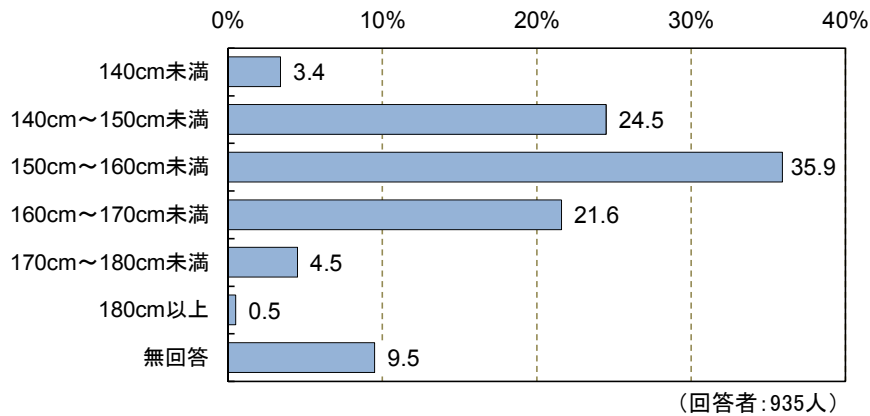
外出する際の移動手段については、「自動車(人に乗せてもらう)」が47.4%で最も多く、次いで「自動車(自分で運転)」(31.6%)、「徒歩」(27.8%)と続いている。

4 食べることについて

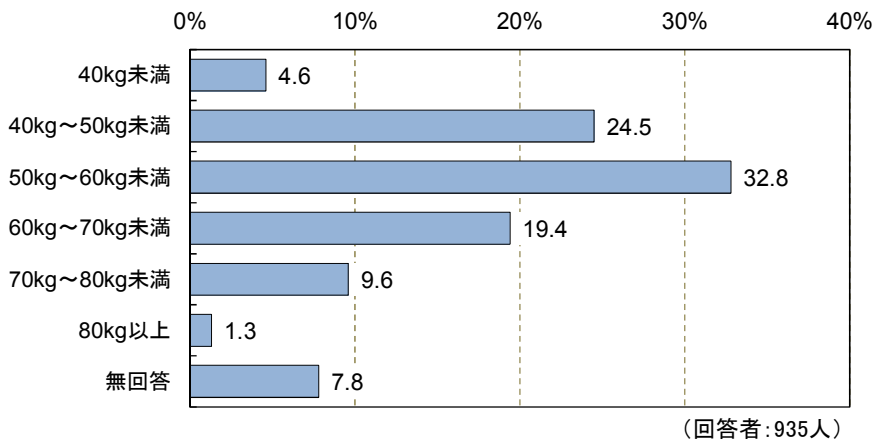
(1) 本人の身長、体重

問3-(1) あて名ご本人の身長、体重をお答えください。

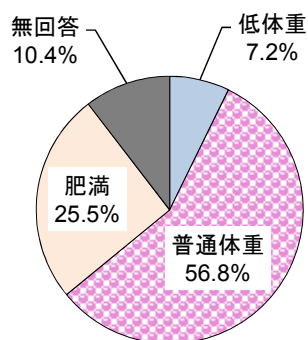
身長



体重



BMI



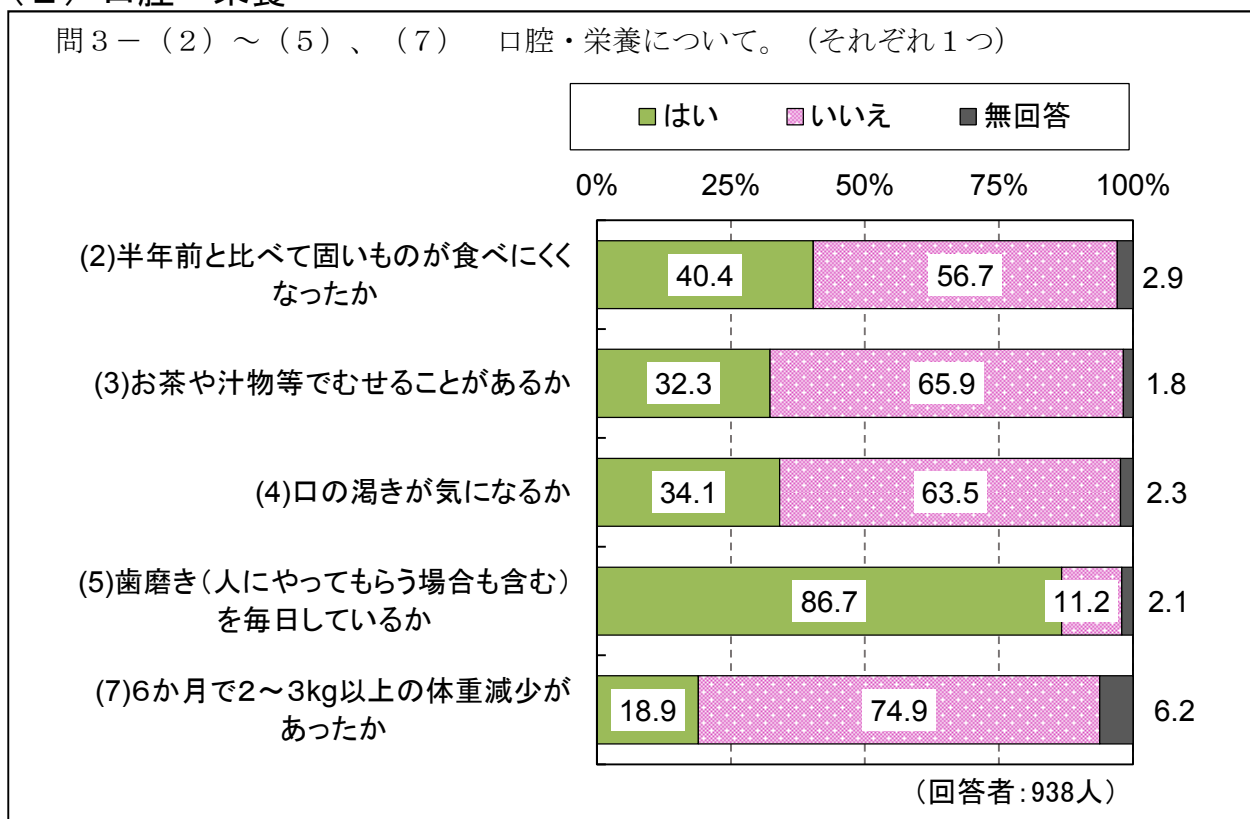
(回答者:938人)

身長は、「150~160cm未満」が35.9%で最も多く、次いで「140~150cm未満」(24.5%)、「160~170cm未満」(21.6%)などとなっている。

体重は、「50~60kg未満」が32.8%で最も多く、次いで「40~50kg未満」(24.5%)、「60~70kg未満」(19.4%)などとなっている。

BMIについては、「18.5~25未満(普通体重)」が56.8%で最も多く、次いで「25以上(肥満)」(25.5%)、「18.5未満(低体重)」(7.2%)となっている。

(2) 口腔・栄養



(2) ~ (5)、(7) は咀嚼機能の低下を問う設問です。「(2) 半年前と比べて固いものが食べにくくなったか」(40.4% : 「はい」) と回答した場合は、咀嚼機能の低下があると判定される。

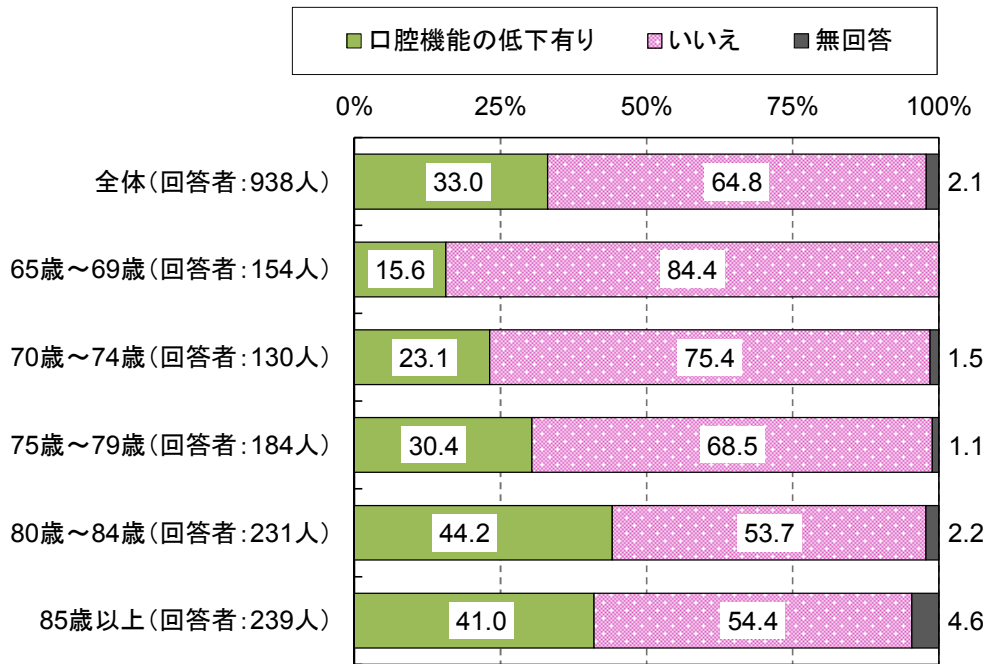
また、「(3) お茶や汁物等でむせることがあるか」(32.3% : 「はい」)、「(4) 口の渇きが気になりるか」(34.1% : 「はい」) と回答した場合は、(2) に加え、(3)、(4) の設問で、2問以上に該当すると、口腔機能が低下していると判定される。

さらに、(1) におけるBMI 18.5以下に該当し、「(7) 6か月間で2~3kg以上の体重減少があったか」で(18.9% : 「はい」) と回答した場合は、低栄養状態と判定される。

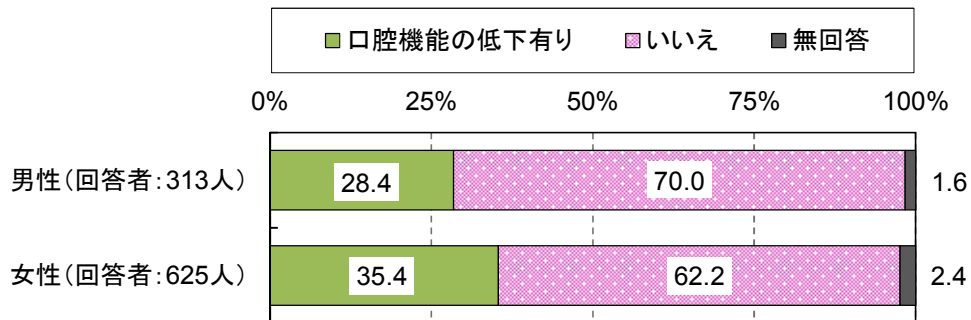
その他、「(5) 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日しているか」では「はい」が86.7%となっている。

(3) 口腔機能の低下について

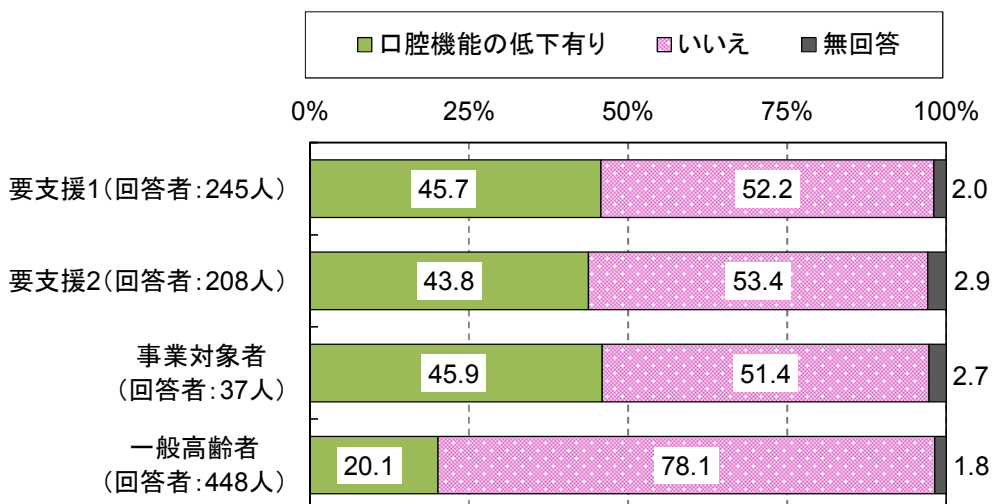
● 年齢別口腔機能の低下状況



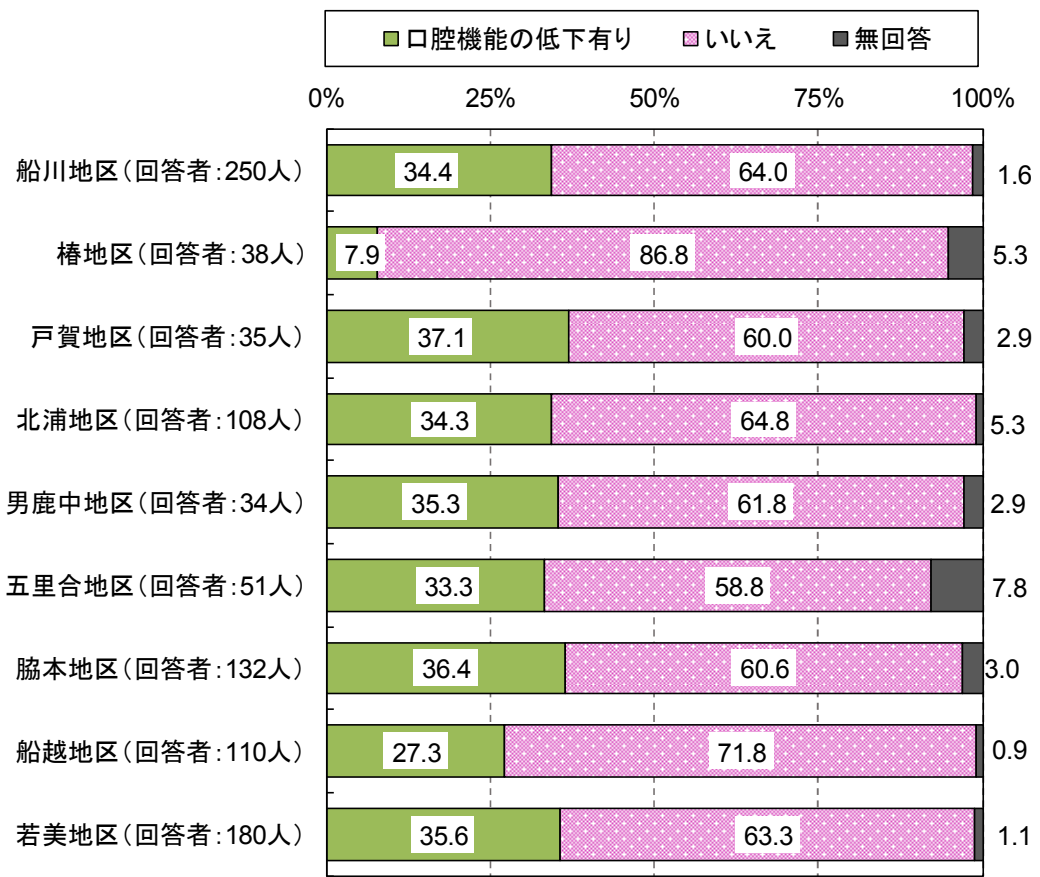
● 男女別口腔機能の低下状況



● 認定状況別口腔機能の低下状況



●居住地区別口腔機能の低下状況



口腔機能低下は、全体の33.0%が該当者となっている。

年齢別では、年齢が上がるにつれ該当者が多くなり、80歳～84歳では44.2%が該当者となっている。

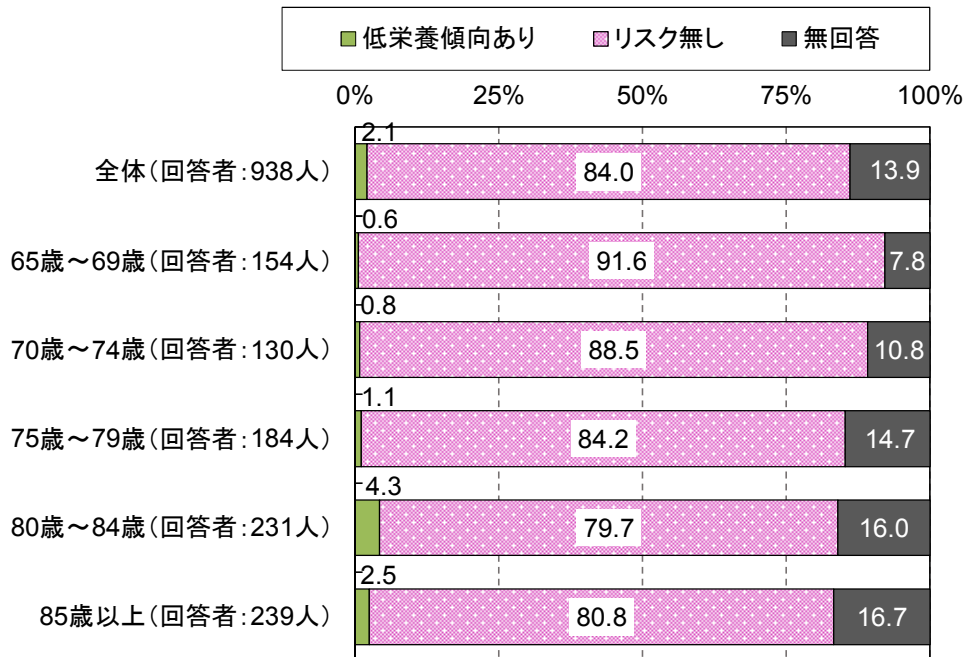
男女別では、「男性」の28.4%、「女性」の35.4%が該当者となっており、女性に該当者が多くなっている。

認定状況別では、一般高齢者の20.1%が該当者となっている。

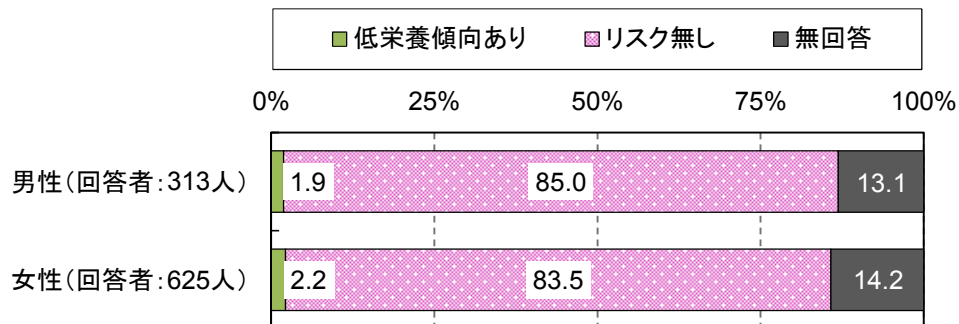
居住地区別では、「戸賀地区」の該当者割合が37.1%で最も多く、「脇本地区」(36.4%)、「若美地区」(35.6%)と続いており、「椿地区」では該当者が7.9%と他の地区と比べて少ない。

(4) 低栄養状態について

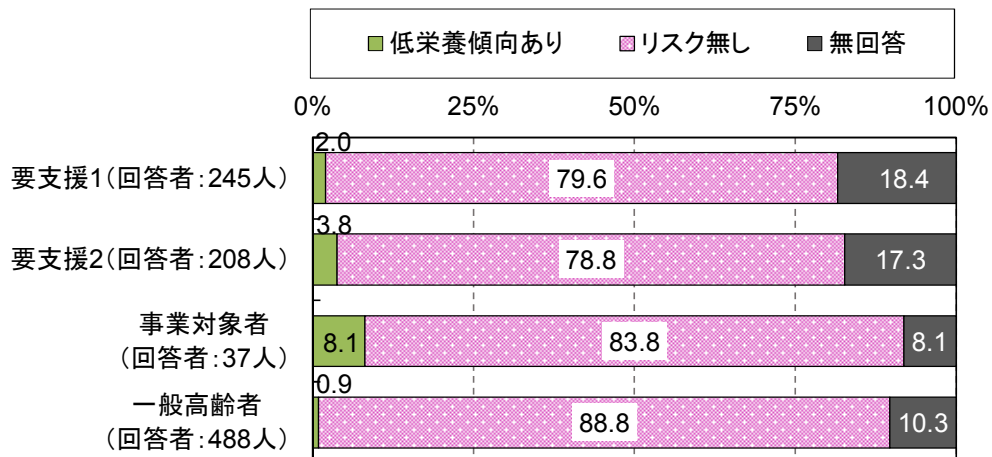
● 年齢別低栄養傾向の状況



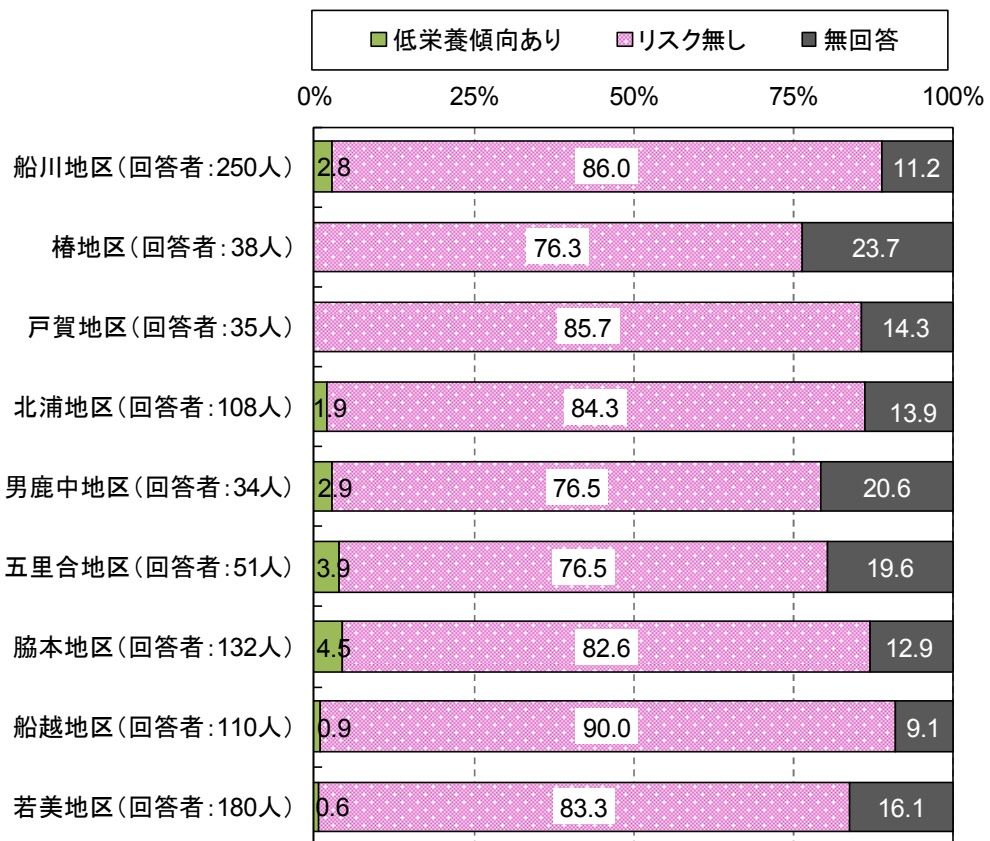
● 男女別低栄養傾向の状況



● 認定状況別低栄養傾向の状況



●居住地区別低栄養傾向の状況



低栄養傾向の状況は、全体の2.1%が該当者となっている。

年齢別では、80歳から84歳の4.3%が該当者となっている。

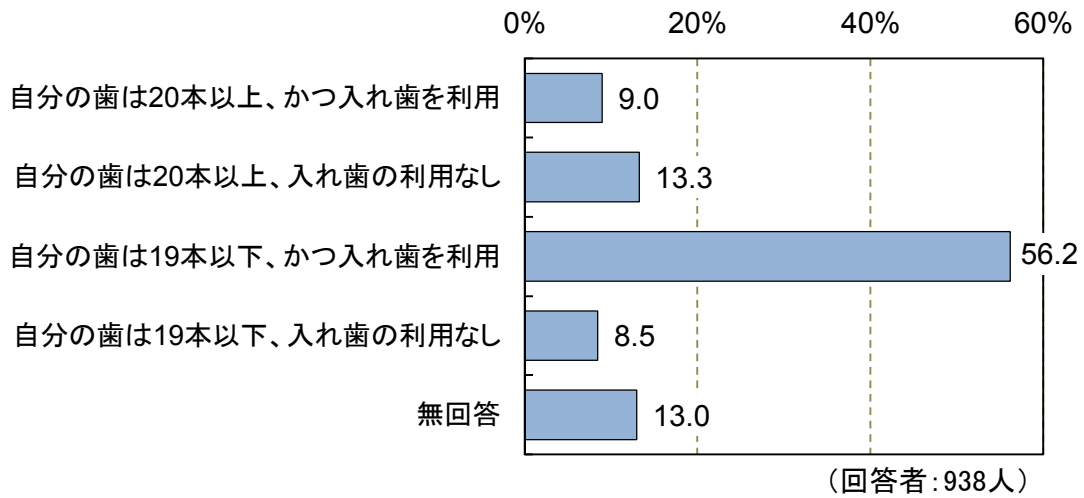
男女別では、「男性」の1.9%、「女性」の2.2%が該当者となっており、女性に該当者が多くなっている。

認定状況別では、一般高齢者の0.9%が該当者となっている。

居住地区別では、「脇本地区」の該当者割合が4.5%で最も多く、「五里合地区」(3.9%)、「男鹿中地区」(2.9%)と続いている。

(5) 入れ歯について

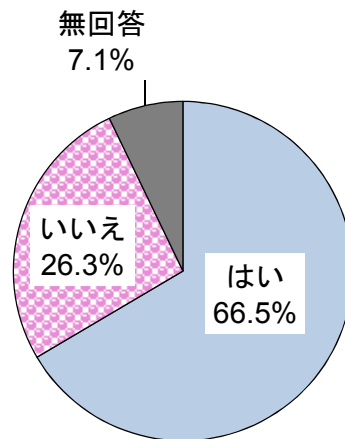
問3-(6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。(1つを選択)
 (成人の歯の総本数は親知らずを含めて32本です)



歯の数と入れ歯の利用状況は、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が56.2%で最も多く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」(13.3%)、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」(9.0%)、「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」(8.5%)となっている。

(6) 噛み合わせについて

問3-(6)-① 噛み合わせは良いですか。(1つを選択)

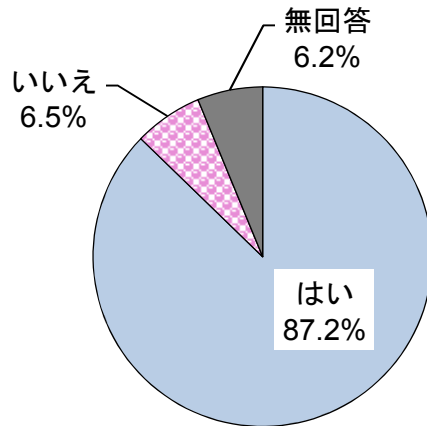


(回答者:938人)

噛み合わせが良いかは、66.5%が「はい」と回答している。

(6) 入れ歯の手入れ

問3-(6)-② 【(6)で「1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の方のみ】
 毎日入れ歯の手入れをしていますか。(1つを選択)

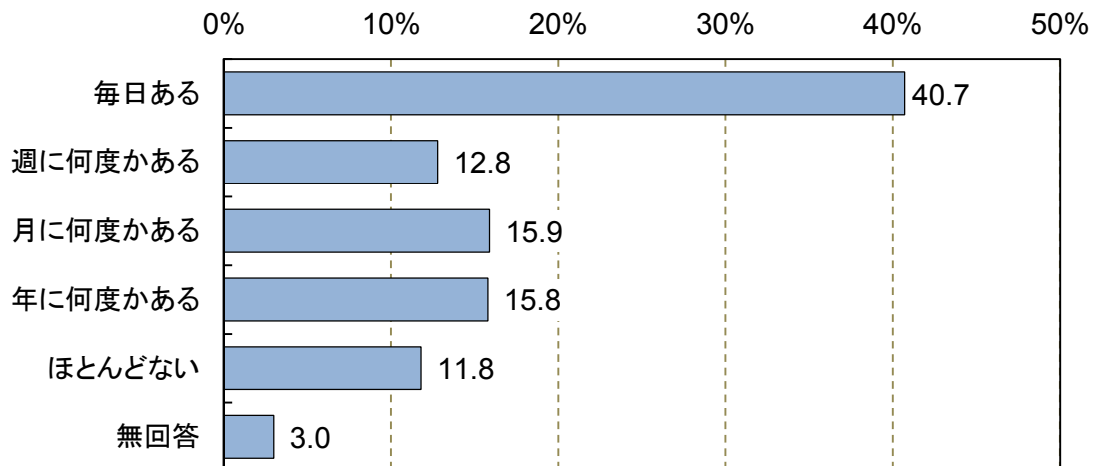


(回答者:611人)

(6)で「1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」、「3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」と回答した611人に、毎日入れ歯の手入れをしているか尋ねると、87.2%が「はい」と回答している。

(7) どなたかと食事をとにもする機会があるか

問3-(8) どなたかと食事をとにもする機会がありますか。(1つを選択)



(回答者:938人)

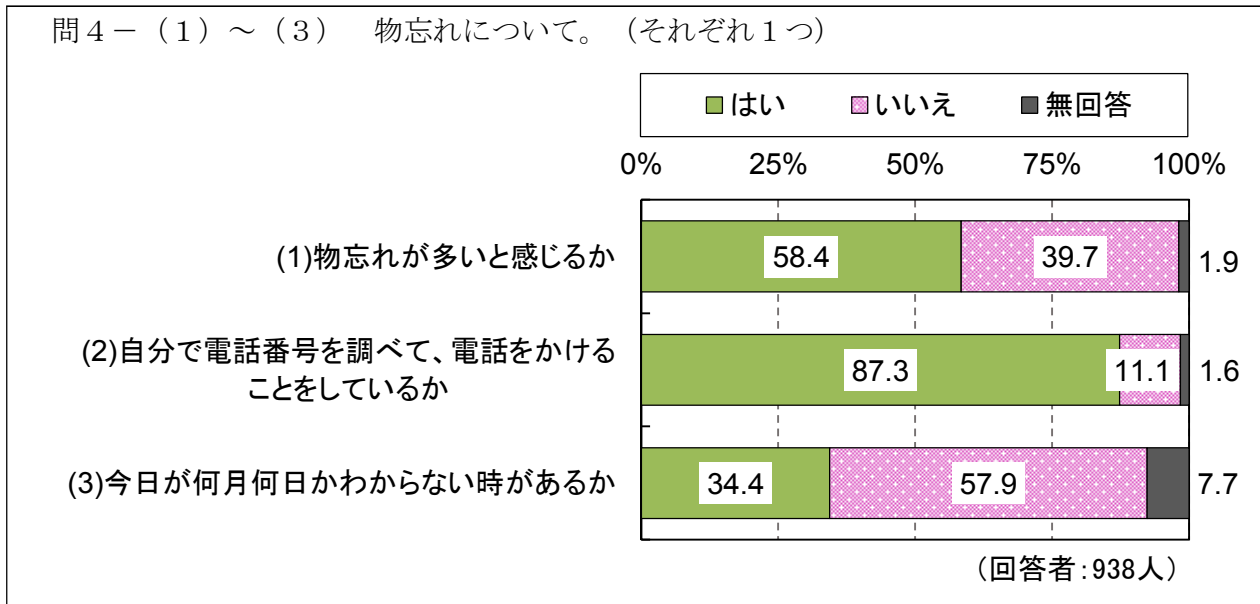
どなたかと食事をとにもする機会があるかは、「毎日ある」が40.7%と最も多く、次いで「月に何度かある」(15.9%)、「年に何度かある」(15.8%)、「週に何度かある」(12.8%)となっている。

また、「ほとんどない」という回答も11.8%あった。

5 毎日の生活について

(1) 物忘れについて

問4－(1)～(3) 物忘れについて。(それぞれ1つ)

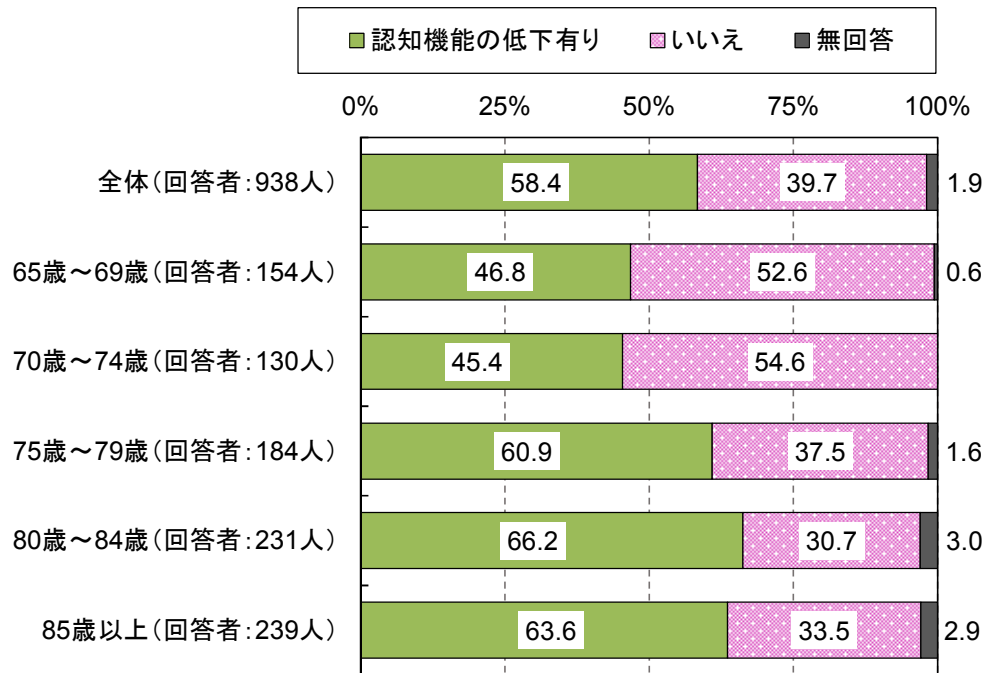


(1)～(3)は認知機能の低下を問う設問です。「(1)物忘れが多いと感じるか」(58.4%：「はい」)と回答した場合は、認知機能の低下があると判定される。

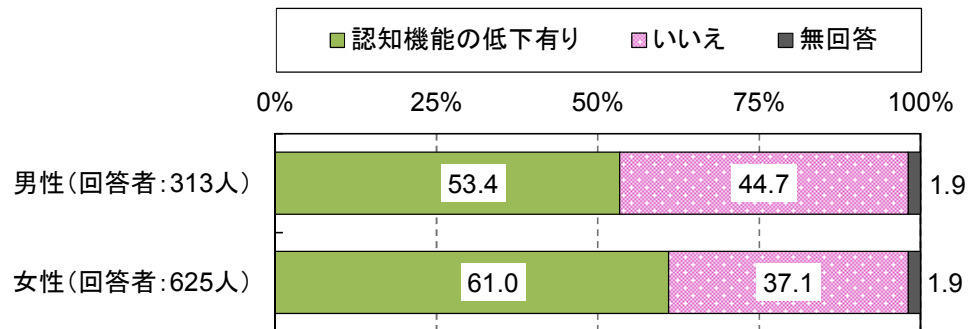
その他、「(2)自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしているか」では「はい」が87.3%、「(3)今日が何月何日かわからない時があるか」では「はい」が34.4%となっている。

(2) 認知機能の低下について

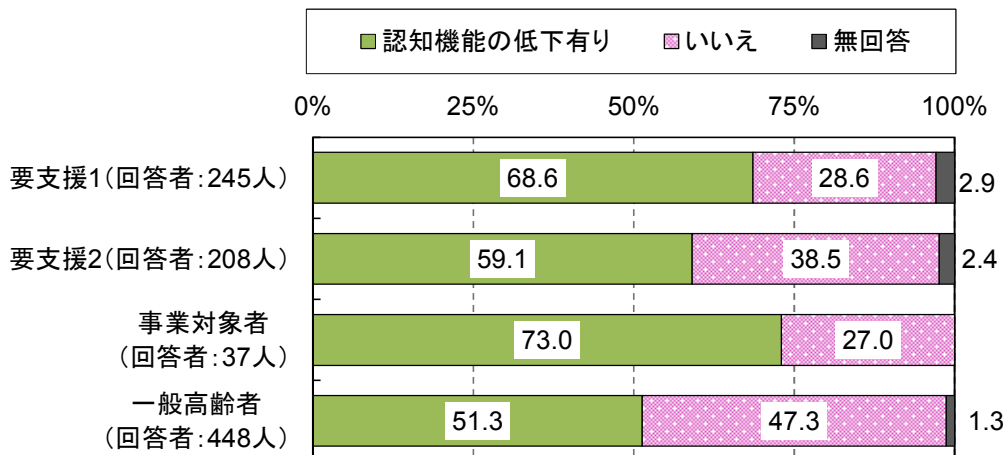
●年齢別認知機能の低下状況



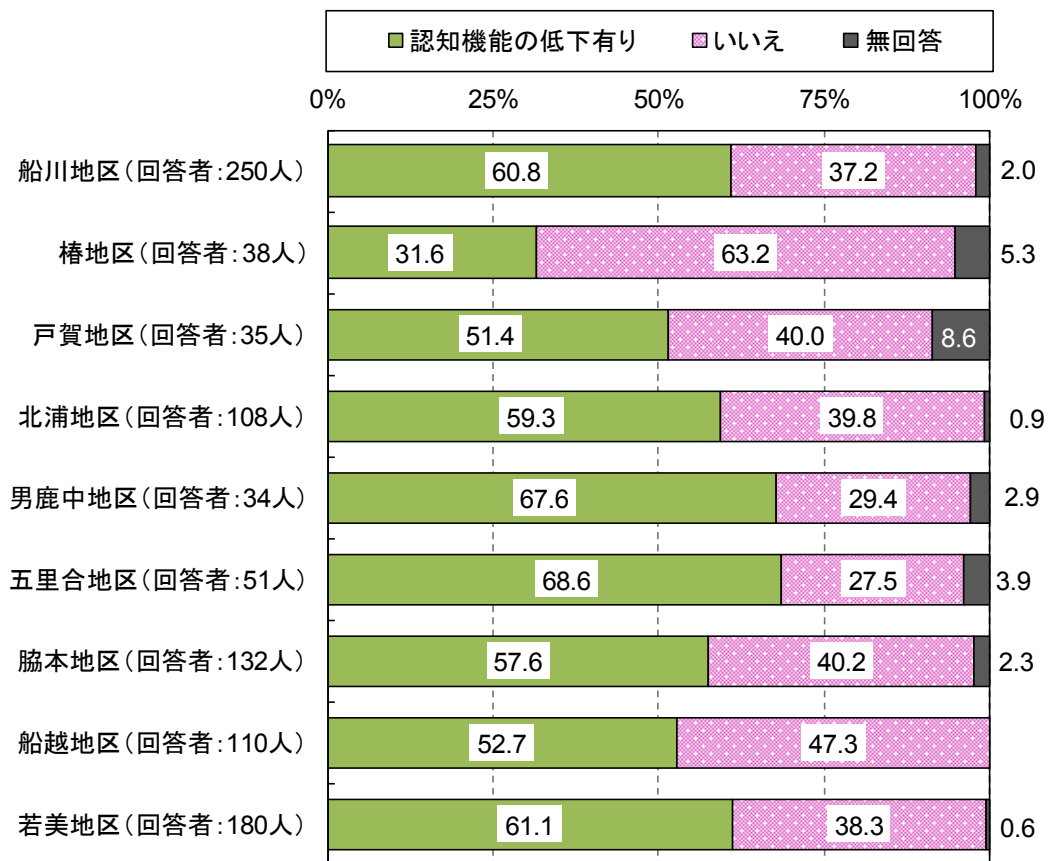
●男女別認知機能の低下状況



●認定状況別認知機能の低下状況



●居住地区別認知機能の低下状況



認知機能の低下は、全体の58.4%が該当者となっている。

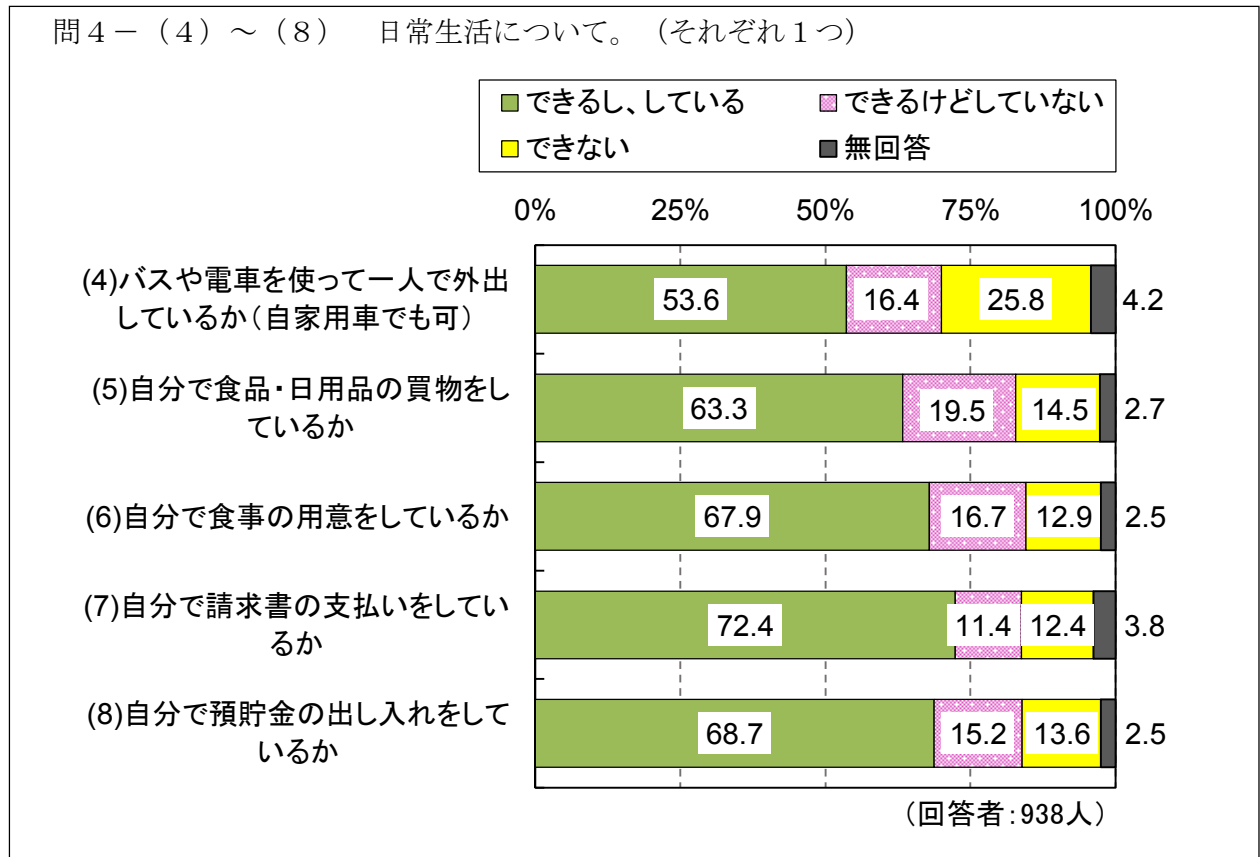
年齢別では、年齢が上がるにつれ該当者が多くなり、80歳～84歳では66.2%が該当者となっている。

男女別では、「男性」の53.4%、「女性」の61.0%が該当者となっており、女性に該当者が多くなっている。

認定状況別では、一般高齢者の51.3%が該当者となっている。

居住地区別では、「五里合地区」の該当者割合が68.6%で最も多く、「男鹿中地区」(67.6%)、「若美地区」(61.1%)と続いており、「椿地区」では該当者が31.6%と他の地区に比べて少ない。

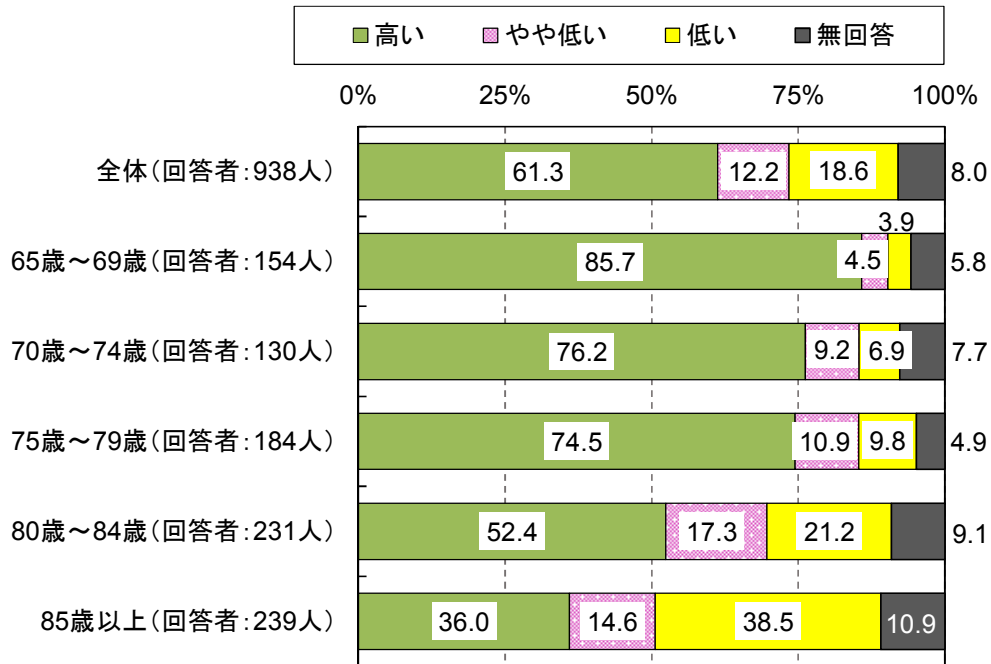
(3) 日常生活の状況



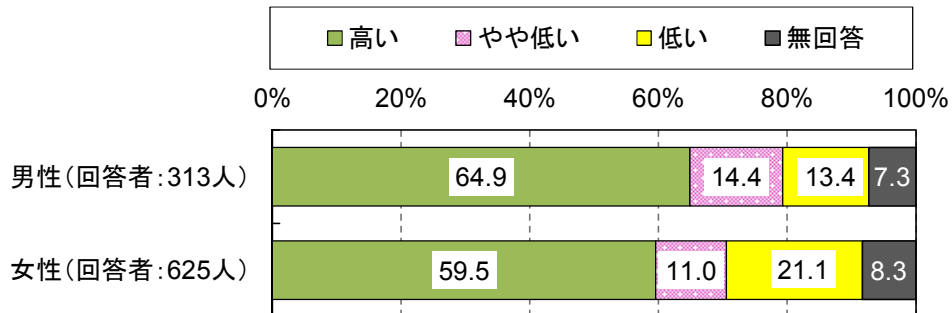
この設問は、IADLの低下を問う設問です。(4)から(8)の項目について、「1. できるし、している」、「2. できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点でIADLを評価します。(5点:高い、4点:やや低い、3点以下:低い)。「(4)バスや電車を使って一人で外出しているか(自家用車でも可)」(53.6%:「できるし、している」、16.4%:「できるけどしていない」)、「(5)自分で食品・日用品の買物をしているか」(63.3%:「できるし、している」、19.5%:「できるけどしていない」)、「(6)自分で食事の用意をしているか」(67.9%:「できるし、している」、16.7%:「できるけどしていない」)、「(7)自分で請求書の支払いをしているか」(72.4%:「できるし、している」、11.4%:「できるけどしていない」)、「(8)自分で預貯金の出し入れをしているか」(68.7%:「できるし、している」、15.2%:「できるけどしていない」)となっている。

(4) IADLの低下について

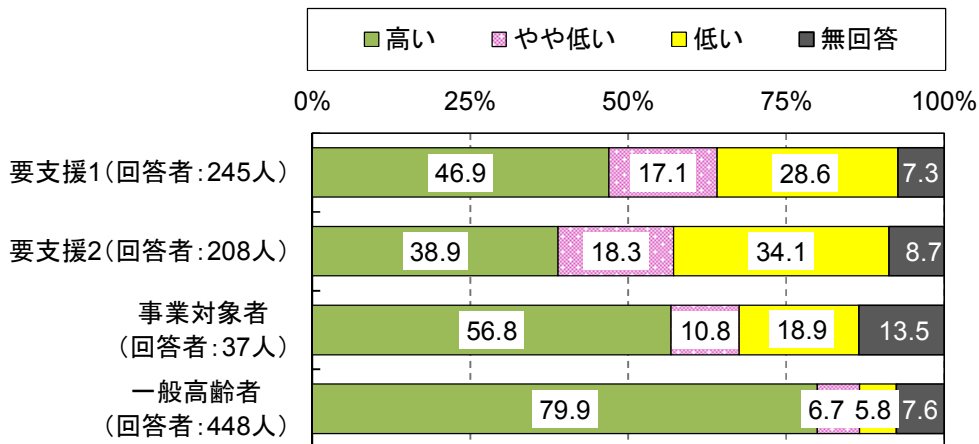
●年齢別 IADLの低下状況



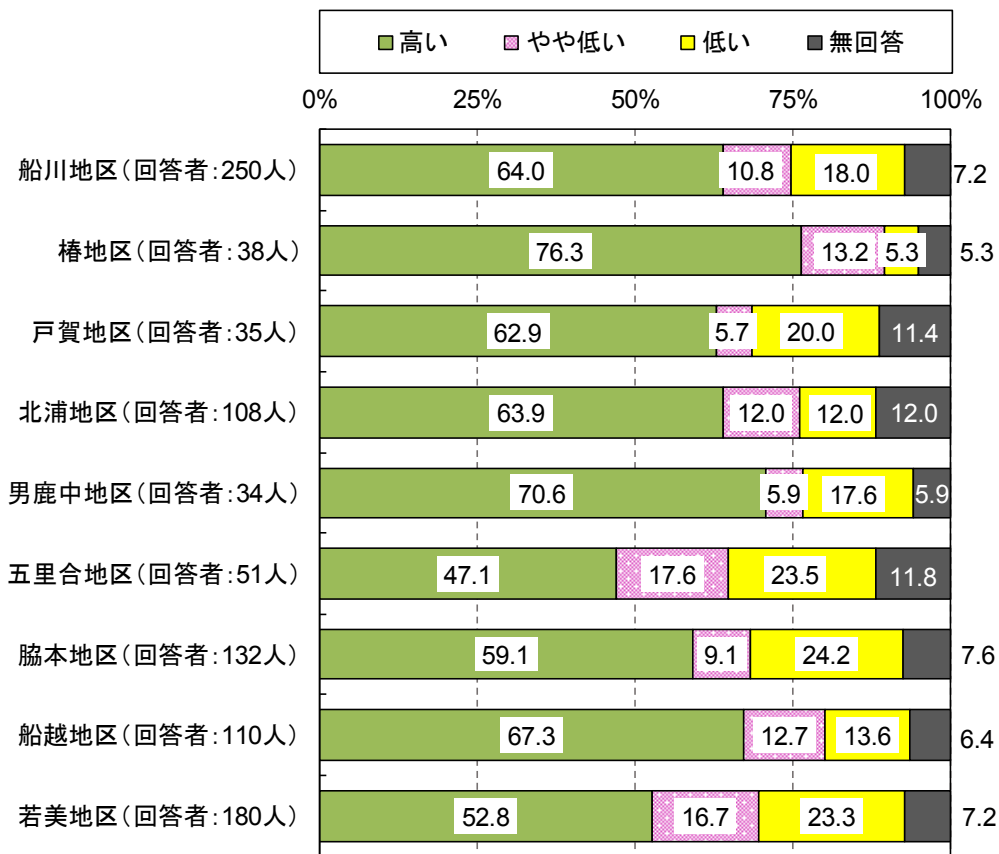
●男女別 IADLの低下状況



●認定状況別 IADLの低下状況



●居住地区別 I A D L の低下状況



IADLの低下は、「やや低い」、「低い」を低下者とする、全体の30.8%が該当者となっている。

年齢別では、年齢が上がるにつれ該当者が多くなり、85歳以上の53.1%が該当者となっている。

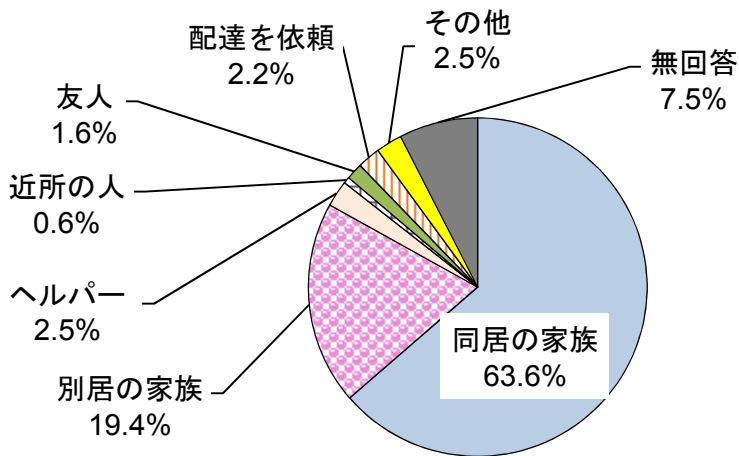
男女別では、「男性」の27.8%、「女性」の32.1%が該当者となっており、女性に該当者が多くなっている。

認定状況別では、一般高齢者の12.5%が該当者となっている。

居住地区別では、「五里合地区」の該当者割合が41.1%で最も多く、「若美地区」(40.0%)、「脇本地区」(33.3%)と続いている。

(5) 日常生活の補助者について

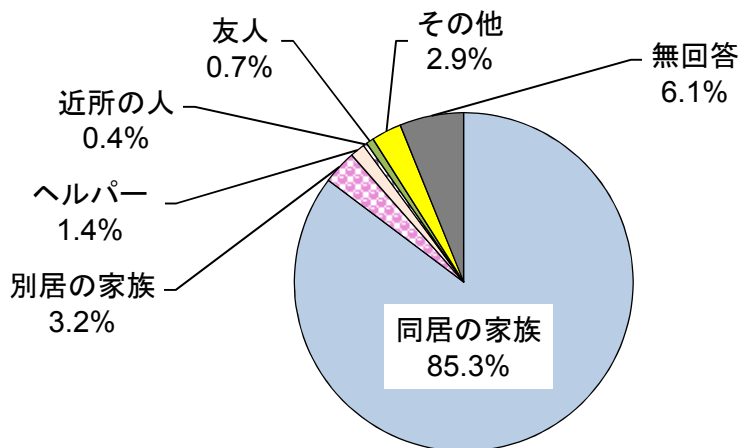
問4-(5)-① 【(5)で「2. できるけどしていない」「3. できない」の方のみ】
 食品・日用品の買い物をする人はおもにどなたですか。(1つを選択)



(回答者:319人)

(5)で「2. できるけどしていない」「3. できない」と回答した319人に、食品・日用品の買い物をする人はおもにどなたか尋ねると、「同居の家族」が63.6%で最も多く、次いで「別居の家族」(19.4%)、「ヘルパー」(2.5%)となっている。

問4-(6)-① 【(6)で「2. できるけどしていない」「3. できない」の方のみ】
 食事の用意をする人はおもにどなたですか。(1つを選択)

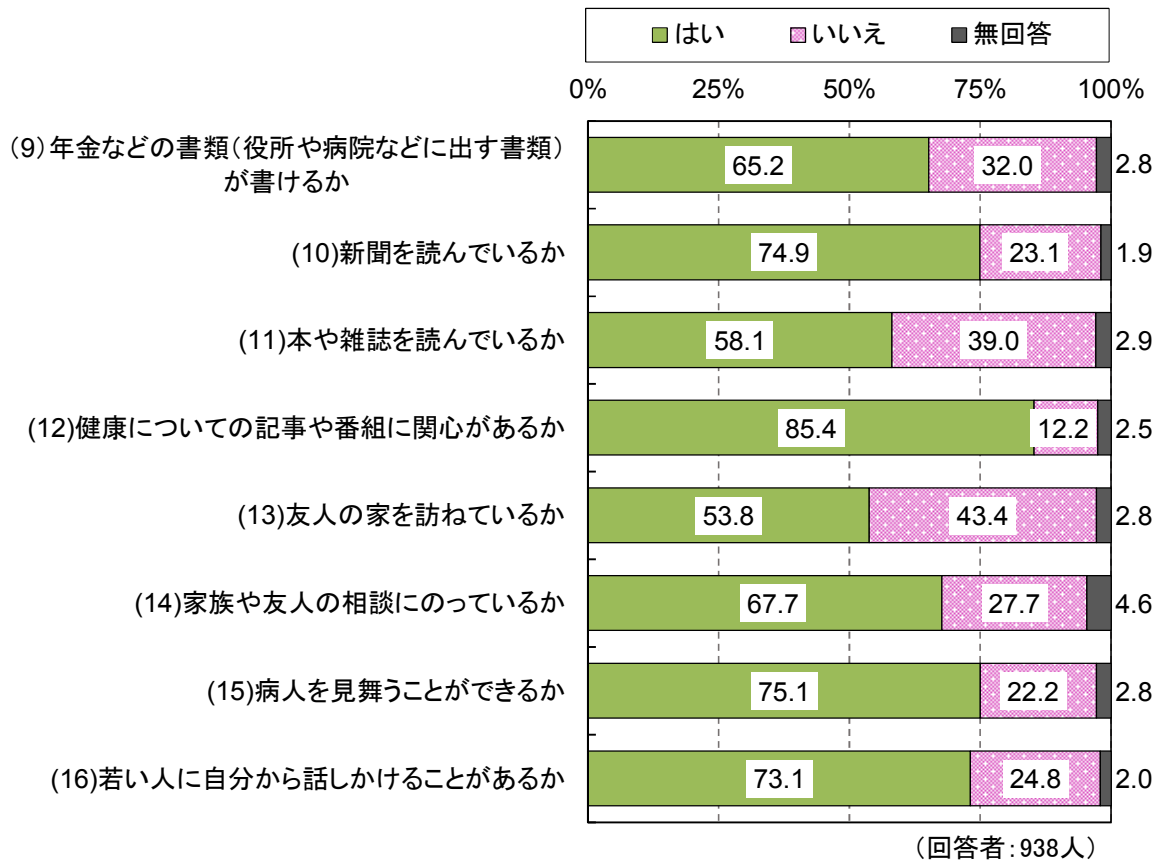


(回答者:278人)

(6)で「2. できるけどしていない」「3. できない」と回答した278人に、食事の用意をする人はおもにどなたか尋ねると、「同居の家族」が85.3%で最も多く、次いで「別居の家族」(3.2%)、「ヘルパー」(1.4%)となっている。

(6) 社会参加の状況

問4－(9)～(16) 社会参加について。(それぞれ1つ)

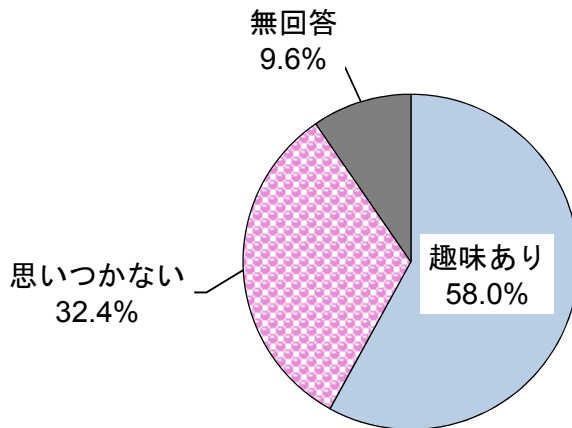


社会参加について「はい」の回答割合が最も高かった項目は、「(12) 健康についての記事や番組に関心があるか」で85.4%となっている。以下「(15) 病人を見舞うことができるか」(75.1%)、「(10) 新聞を読んでいるか」(74.9%)「(16) 若い人に自分から話しかけることがあるか」(73.1%)と続いている。

また、「いいえ」の回答割合が最も高かった項目は「(13) 友人の家を訪ねているか」で43.4%となっている。

(7) 趣味について

問4－(17) 趣味はありますか。(1つを選択)

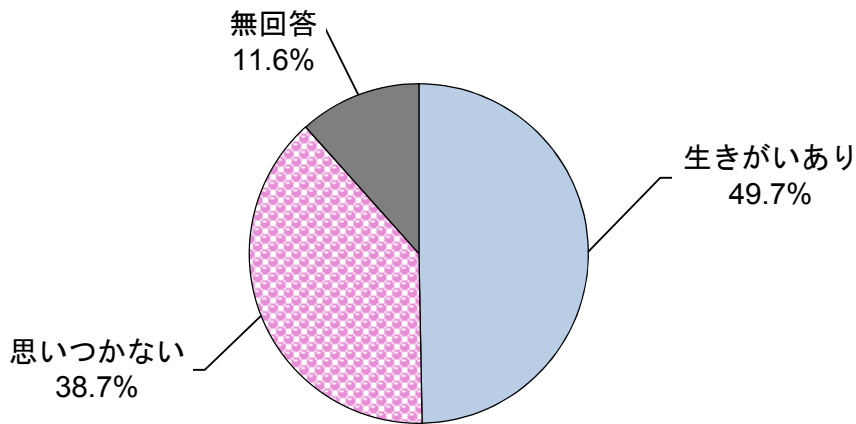


(回答者:938人)

趣味があるかは、「趣味あり」が58.0%、「思いつかない」が32.4%となっている。
また、趣味がある方の具体的な内容では、「カラオケ」、「園芸」、「家庭菜園」、「手芸」、「ゴルフ」、「釣り」、「読書」、「旅行」などの回答があった。

(8) 生きがいについて

問4－(18) 生きがいはありますか。(1つを選択)



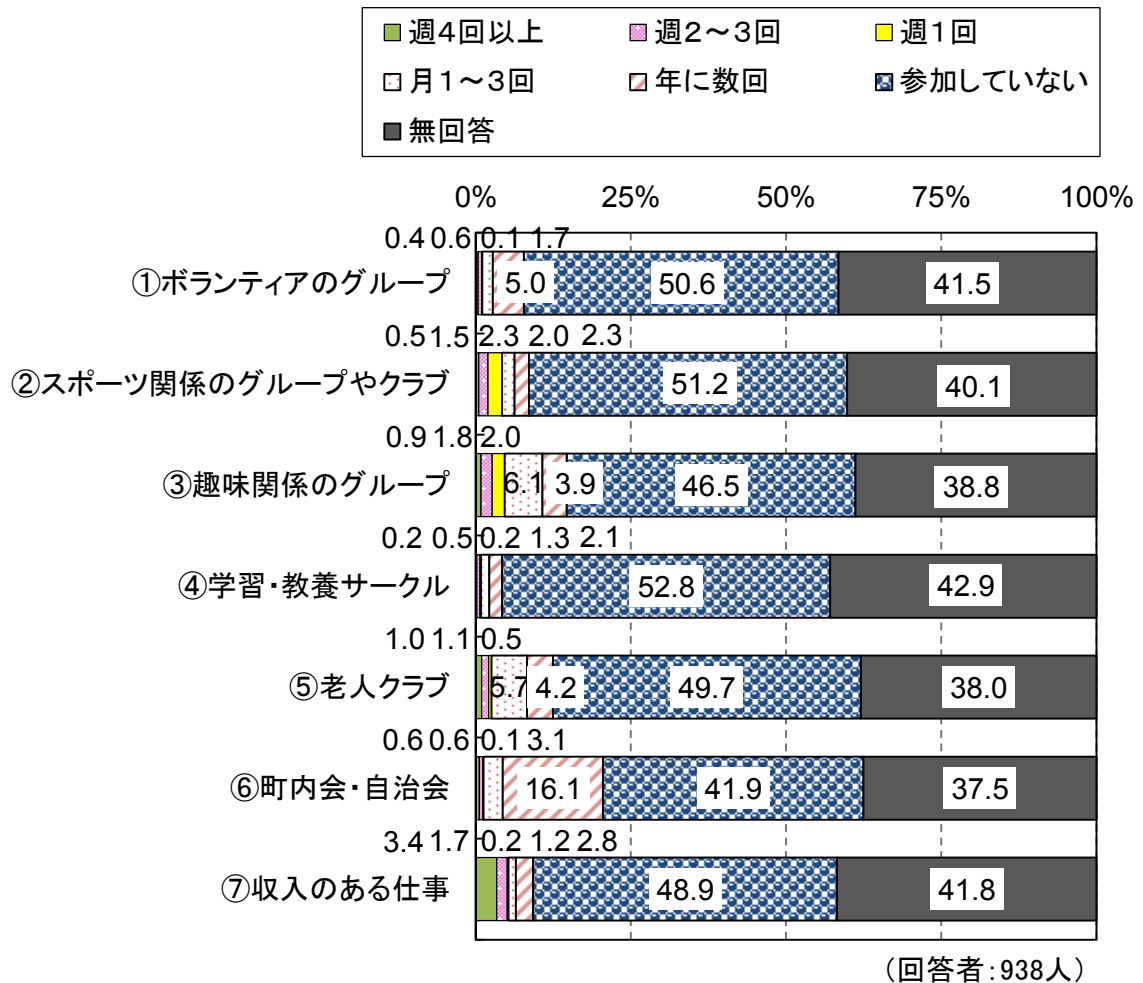
(回答者:938人)

生きがいがあるかは、「生きがいあり」が49.7%、「思いつかない」が38.7%となっている。
また、生きがいがある方の具体的な内容では、「健康」、「孫、ひ孫の成長」、「友達と会う」、「家庭菜園」、「旅行」、「仕事」などの回答があった。

6 地域での活動について

(1) グループ活動等の参加頻度

問5 - (1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。
(それぞれ1つ)

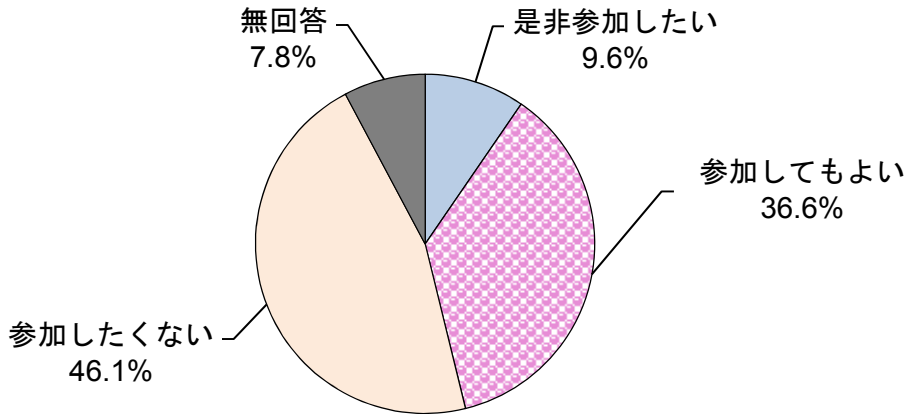


グループ活動等にどのくらいの頻度で参加しているかは、「⑥町内会・自治会」の参加状況が比較的高く、「参加していない」を除いて、2割が参加している。

また、「参加していない」という回答が最も多かったのは、「④学習・教養サークル」(52.8%)となっている。

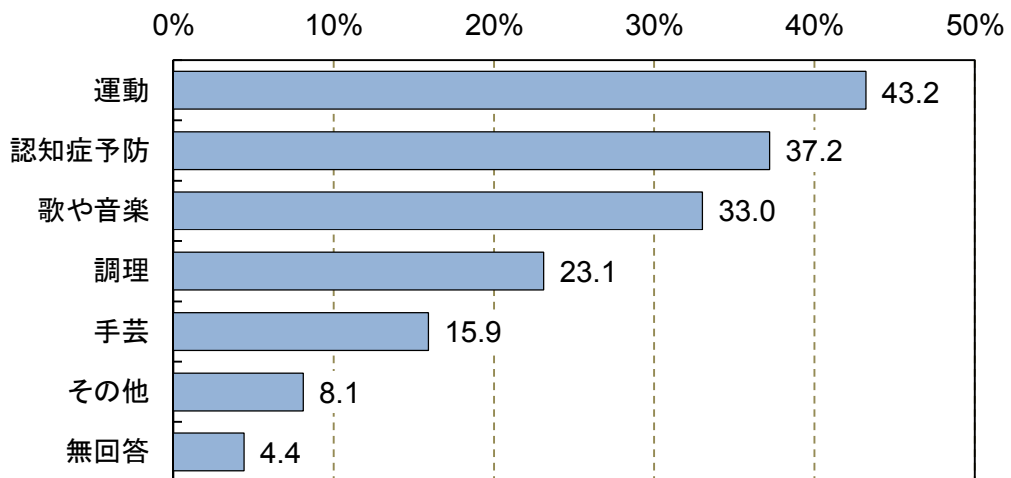
(2) 社会参加について

問5－(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(1つを選択)



(回答者:938人)

問5－(2)－① 【(2)で「1. 是非参加したい」「2. 参加してみてもよい」の方のみ】
具体的にどんな活動をしたいですか(いくつでも)

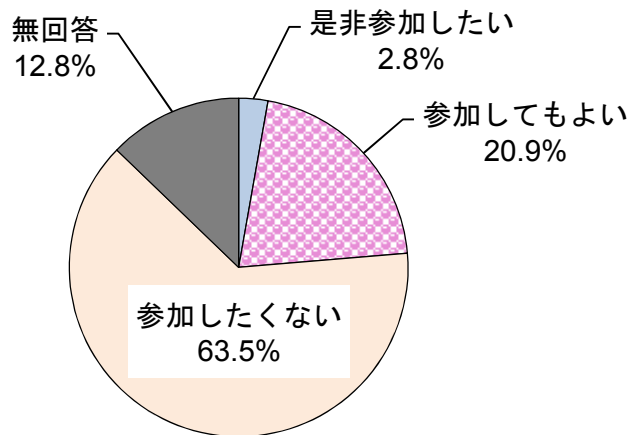


(回答者:433人)

地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいかでは、「是非参加したい」(9.6%)、「参加してみてもよい」(36.6%)を合わせると、46.2%に参加意向がある。

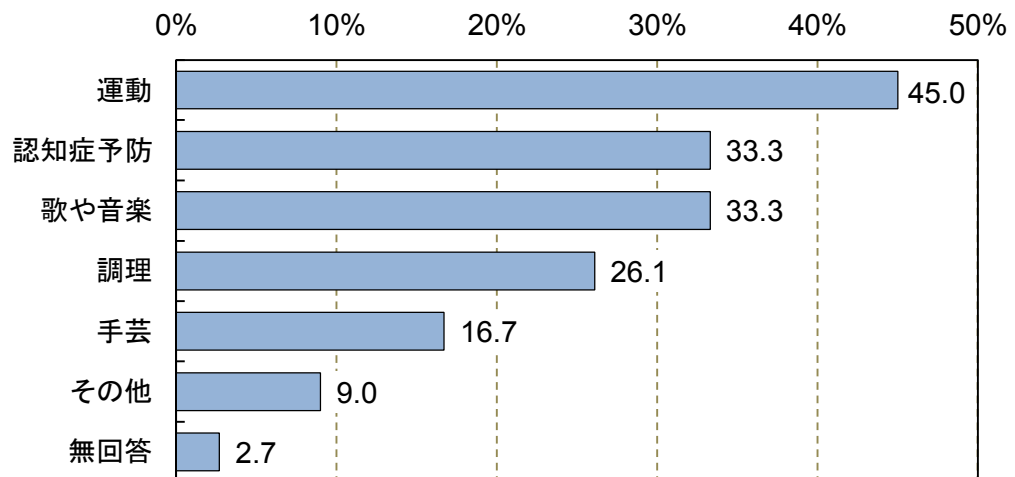
また、具体的にどんな活動をしたいかでは、「運動」が43.2%で最も多く、以下「認知症予防」(37.2%)、「歌や音楽」(33.0%)と続いている。

問5－(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか（1つを選択）



(回答者:938人)

問5－(3)－① 【(3)で「1.是非参加したい」「2.参加してもよい」の方のみ】
具体的にどんな活動をしたいですか（いくつでも）

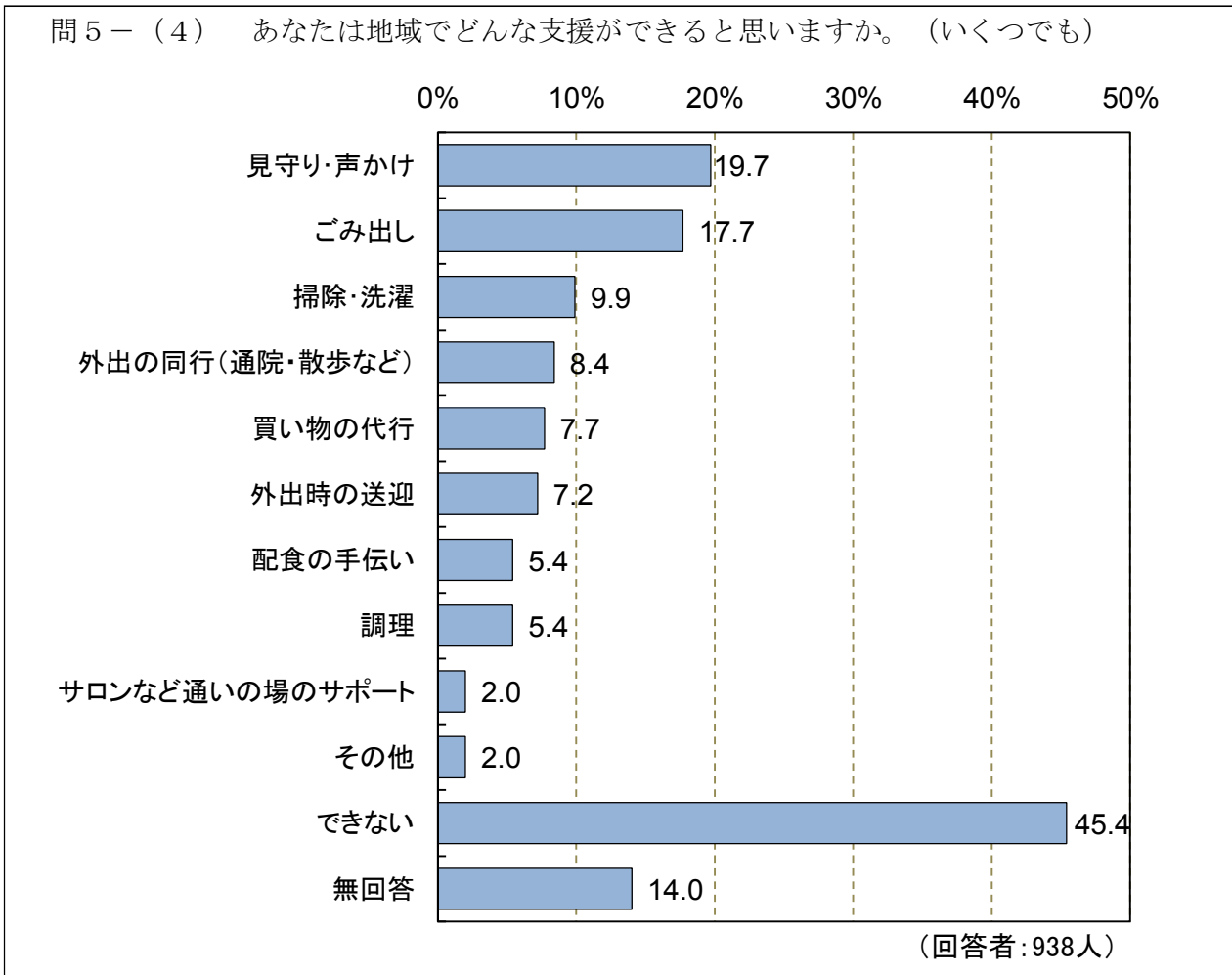


(回答者:222人)

地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営として参加してみたいかでは、「是非参加したい」（2.8%）、「参加してもよい」（20.9%）を合わせると、23.7%に参加意向がある。

また、具体的にどんな活動をしたいかでは、「運動」が45.0%で最も多く、以下「認知症予防」、「歌や音楽」（ともに33.3%）と続いている。

(3) 地域支援について

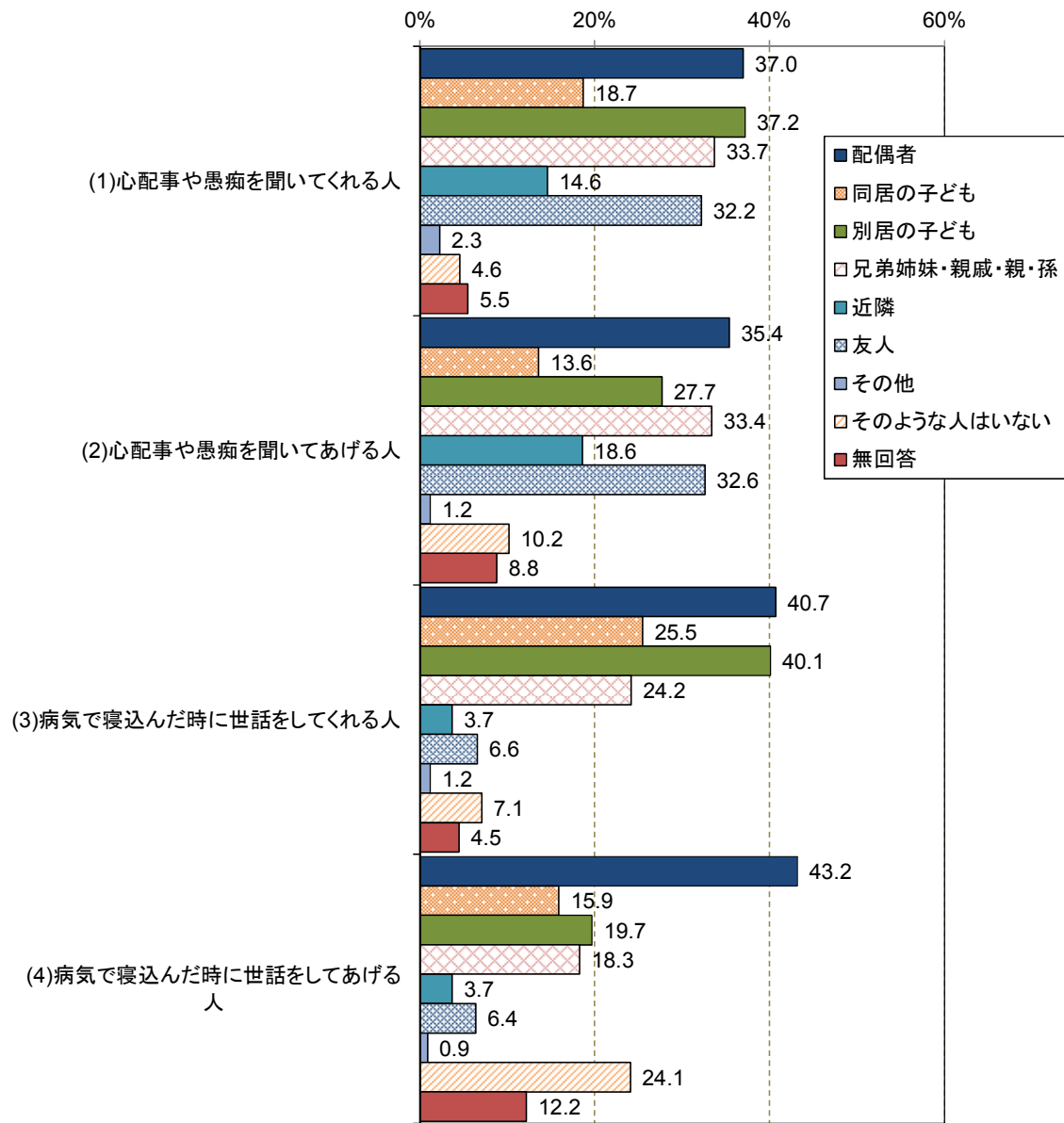


地域でどんな支援ができると思うかでは、「見守り・声かけ」が19.7%で最も多く、以下「ごみ出し」(17.7%)、「掃除・洗濯」(9.9%)と続いている。

7 たすけあいについて

(1) 「たすけあい」について

問6 - (1) ~ (4) あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。
(いくつでも)

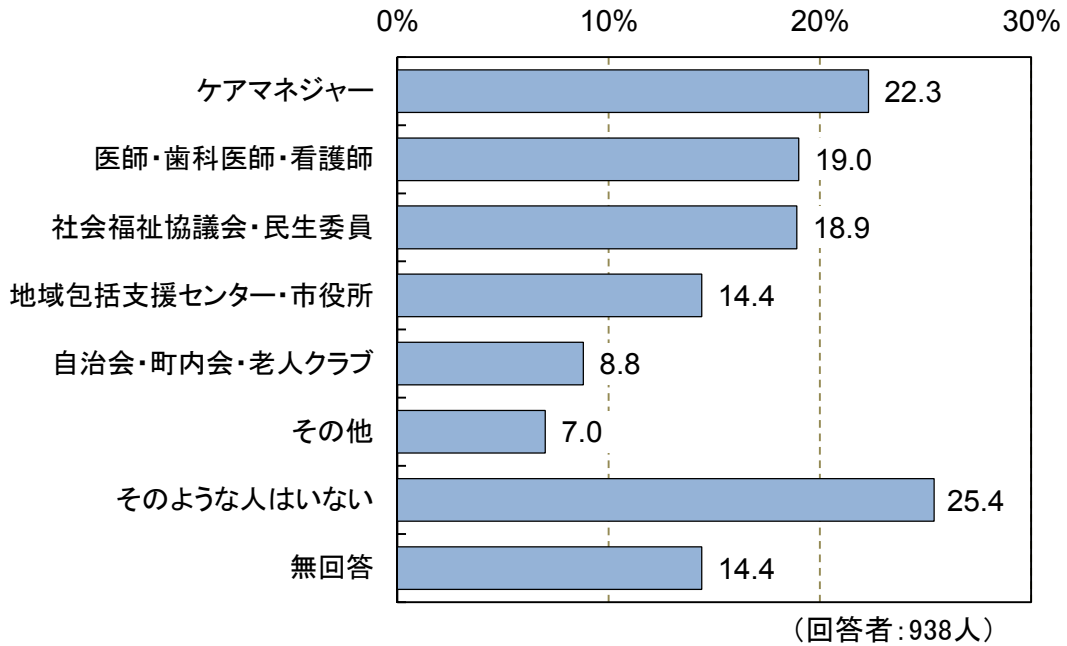


(回答者: 938人)

あなたとまわりの人の「たすけあい」については、全体的に「配偶者」という回答が多くなっている。また、「(1) あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人」、「(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人」という項目では「別居の子ども」という回答も同程度多くなっている。

(2) 家族や友人・知人以外の相談相手

問6－(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。(いくつでも)

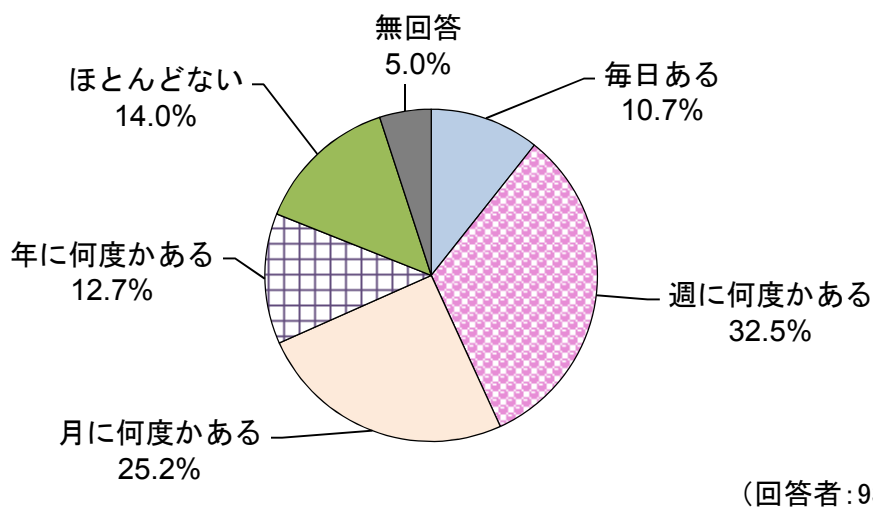


家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手は、「ケアマネジャー」が22.3%と最も多く、次いで「医師・歯科医師・看護師」(19.0%)、「社会福祉協議会・民生委員」(18.9%)と続いている。

また、25.4%が「そのような人はいない」と回答している。

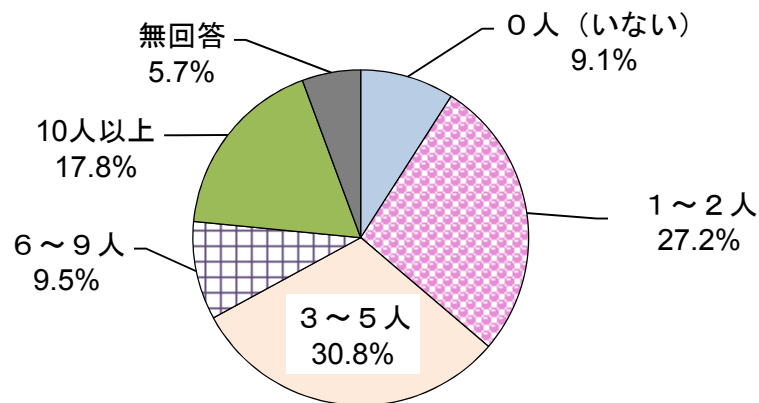
(3) 友人関係について

問6－(6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。(1つを選択)



友人・知人と会う頻度は「週に何度かある」が32.5%と最も多く、次いで「月に何度かある」(25.2%)、「年に何度かある」(12.7%)と続いている。

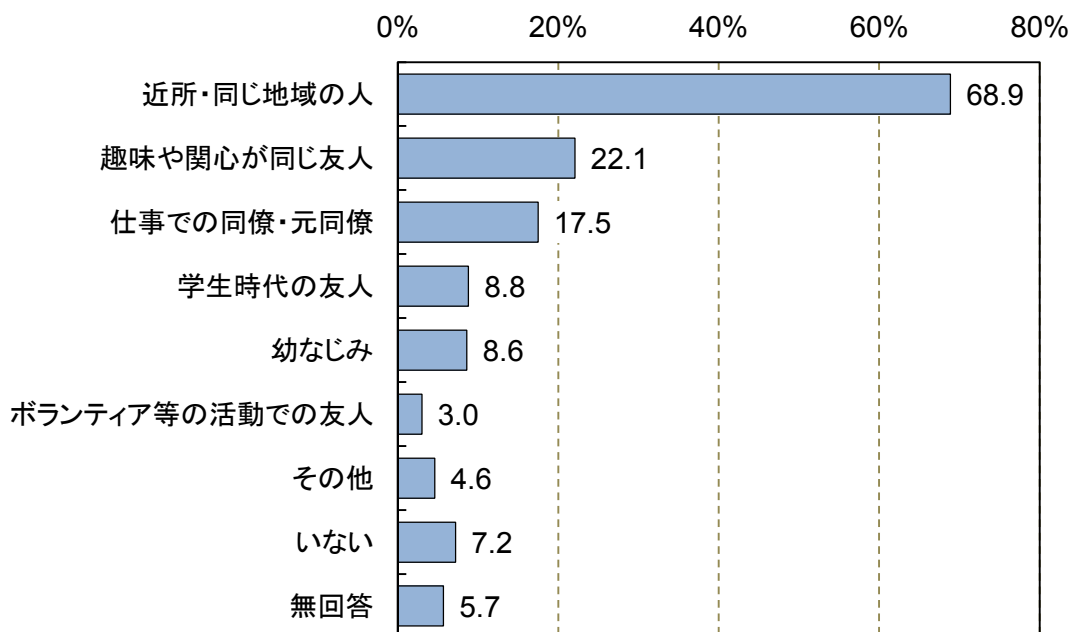
問6－(7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。(1つを選択)
 同じ人には何度会っても1人と数えることとします。



(回答者:938人)

この1か月間、何人の友人・知人と会ったかは、「3~5人」が30.8%と最も多く、次いで「1~2人」(27.2%)、「10人以上」(17.8%)と続いている。

問6－(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(いくつでも)

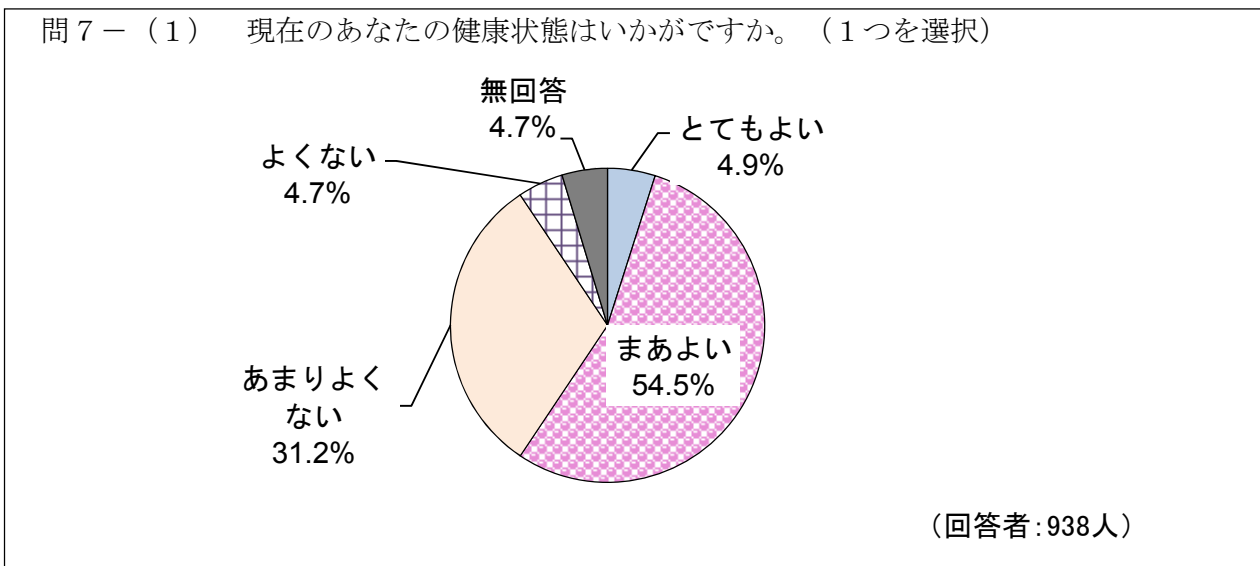


(回答者:938人)

よく会う友人・知人はどんな関係かは、「近所・同じ地域の人」が68.9%と最も多く、次いで「趣味や関心が同じ友人」(22.1%)、「仕事での同僚・元同僚」(17.5%)と続いている。

8 健康について

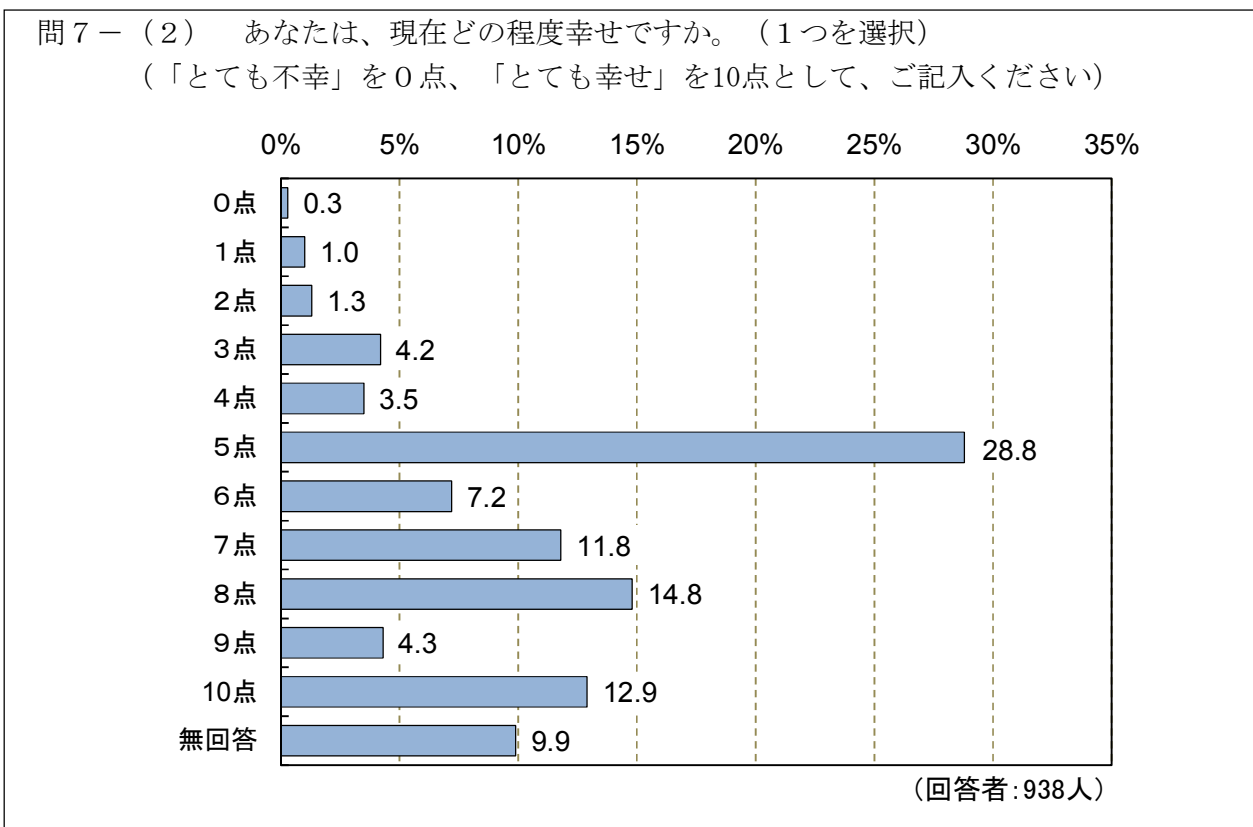
(1) 健康状態について



現在の健康状態は、「とてもよい」(4.9%)、「まあよい」(54.5%)を合わせると、59.4%が健康状態はよいと回答している。

また、「よくない」(4.7%)、「あまりよくない」(31.2%)を合わせると、35.9%が健康状態はよくないと回答している。

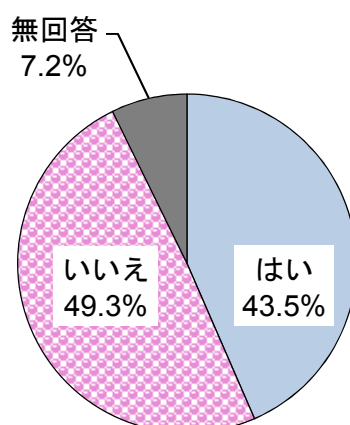
(2) 現在どの程度幸せか



現在どの程度幸せかは、ちょうど中間にあたる「5点」が28.8%と最も多く、次いで「8点」(14.8%)、「10点」(12.9%)と続いており、5点以上の回答が約8割となっている。

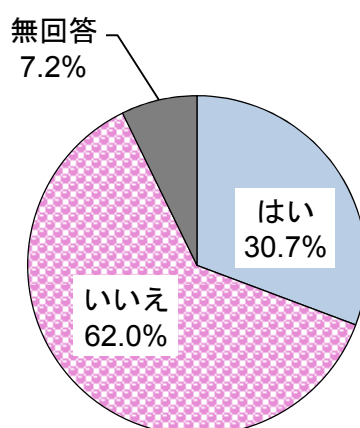
(3) こころの健康について

問7－(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。(1つを選択)



(回答者938人)

問7－(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(1つを選択)

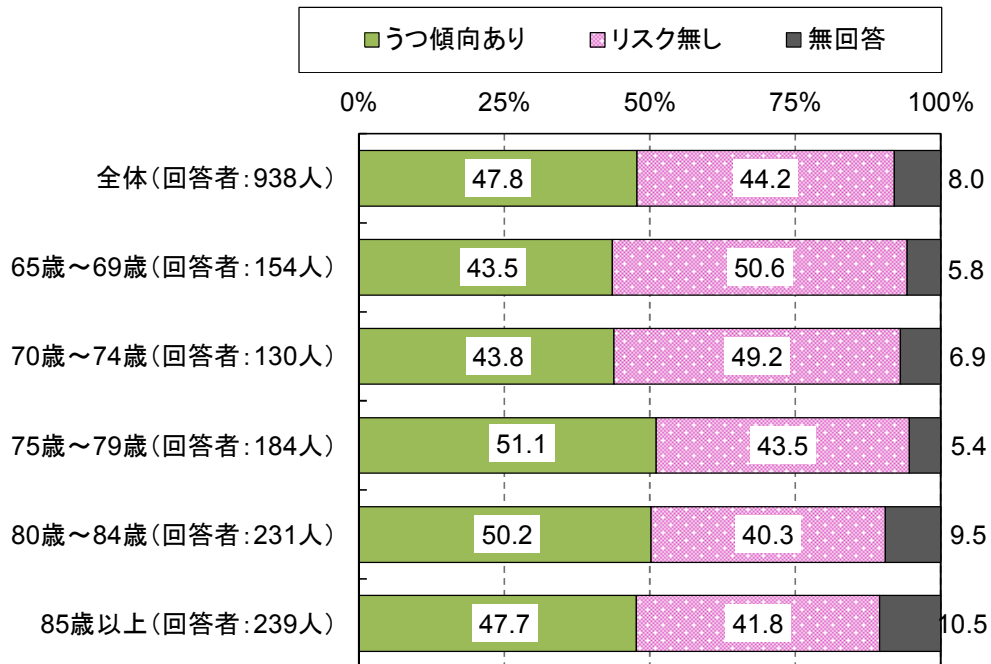


(回答者:938人)

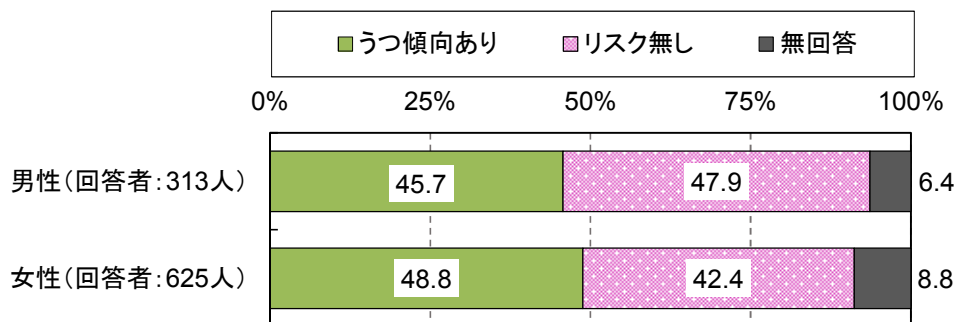
問7－(3)、(4)はうつ傾向を問う設問です。各項目の該当割合は、「この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったか」(43.5%：「はい」)、「この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったか」(30.7%：「はい」)となっており、いずれか1つの設問に該当すると、うつ傾向と判定される。

(4) うつ傾向について

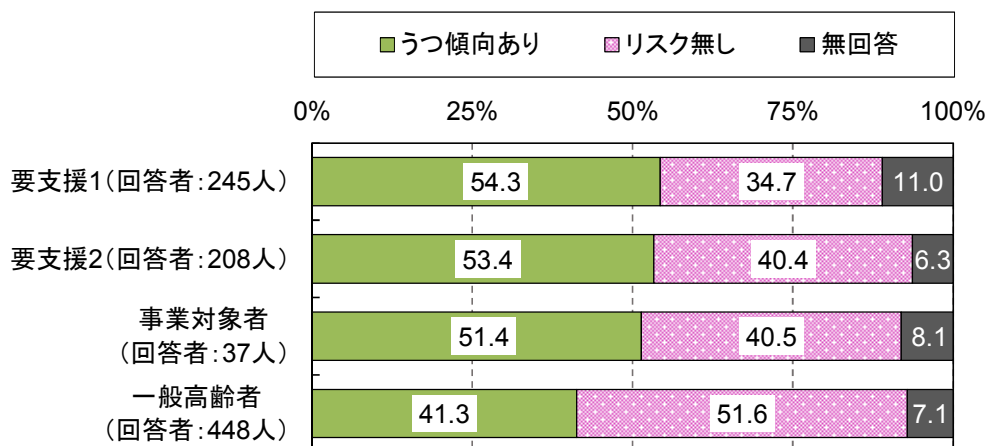
●年齢別うつ傾向



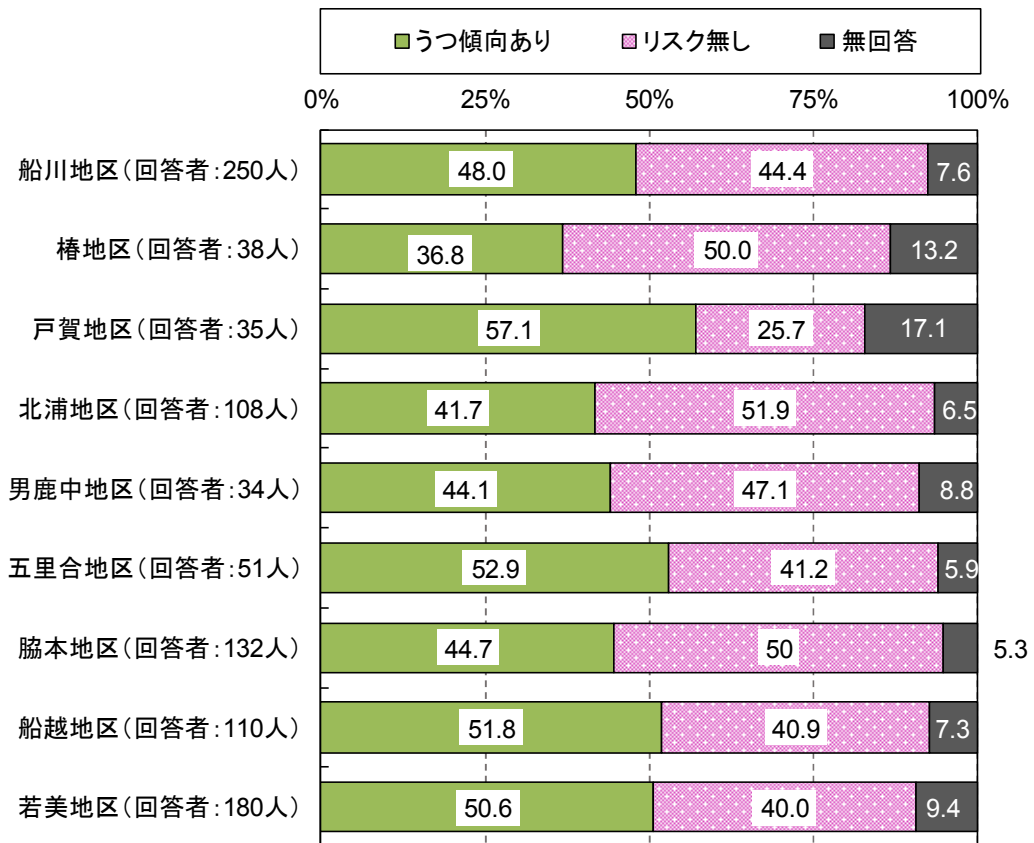
●男女別うつ傾向



●認定状況別うつ傾向



●居住地区別うつ傾向



うつ傾向は、全体の47.8%が該当者となっている。

年齢別では、全体的に4～5割の該当者があり、最も該当者の割合が多かった75歳～79歳以上では51.1%が該当者となっている。

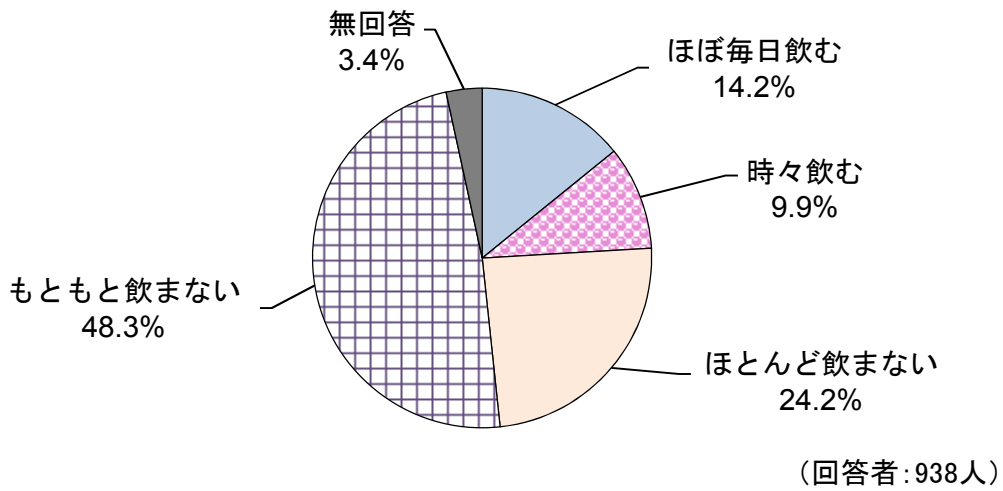
男女別では、「男性」の45.7%、「女性」の48.8%が該当者となっており、女性に該当者が多くなっている。

認定状況別では、一般高齢者の41.3%が該当者となっている。

居住地区別では、「戸賀地区」の該当者割合が57.1%で最も多く、「五里合地区」(52.9%)、「船越地区」(51.8%)と続いている。

(5) 飲酒について

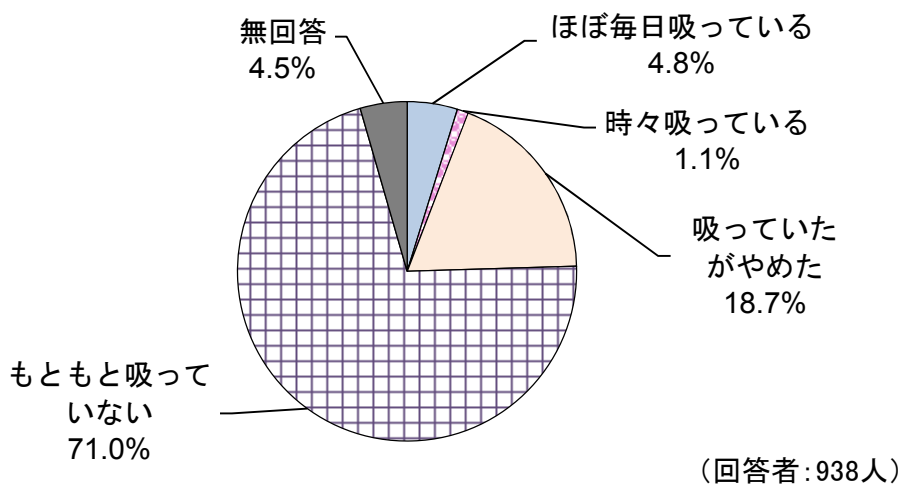
問7-(5) お酒は飲みますか。(1つを選択)



飲酒については、「もともと飲まない」が48.3%で最も多く、次いで「ほとんど飲まない」(24.2%)、「ほぼ毎日飲む」(14.2%)、「時々飲む」(9.9%)となっている。

(6) 喫煙について

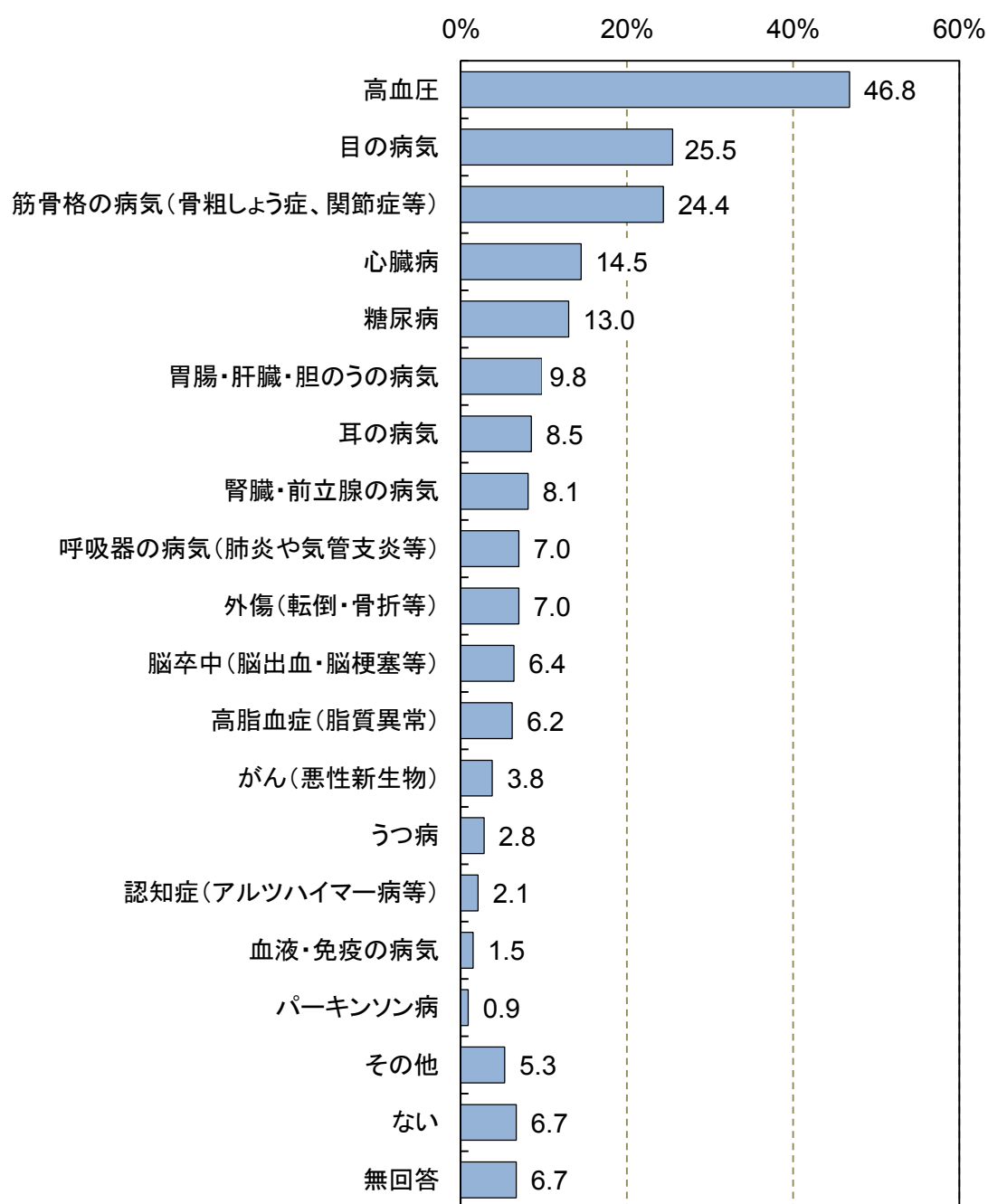
問7-(6) タバコは吸っていますか。(1つを選択)



喫煙については、「もともと吸っていない」が71.0%で最も多く、次いで「吸っていたがやめた」(18.7%)、「ほぼ毎日吸っている」(4.8%)、「時々吸っている」(1.1%)となっている。

(7) 治療中、または後遺症のある病気

問7-(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(いくつでも)

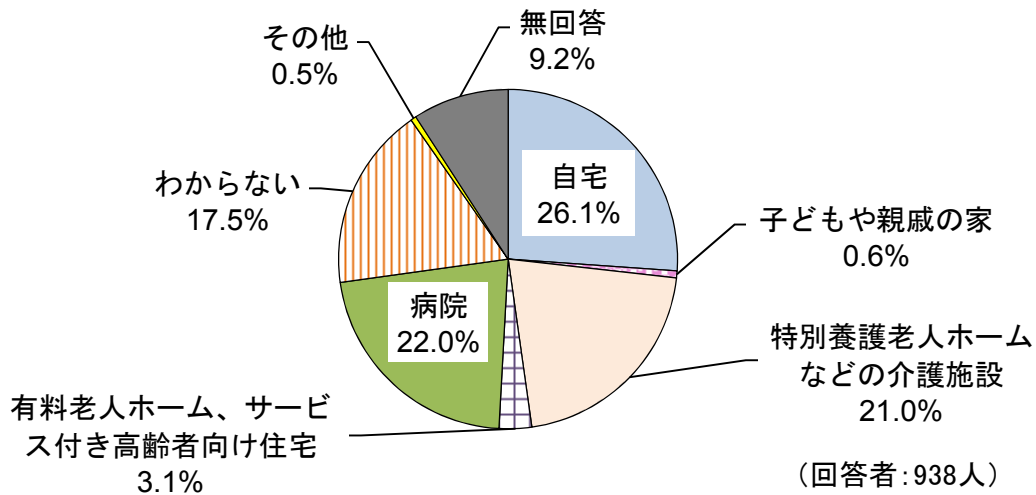


(回答者:938人)

現在治療中もしくは後遺症のある病気は、「高血圧」が46.8%と最も多く、次いで「目の病気」(25.5%)、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」(24.4%)と続いている。また、6.7%が「ない」と回答している。

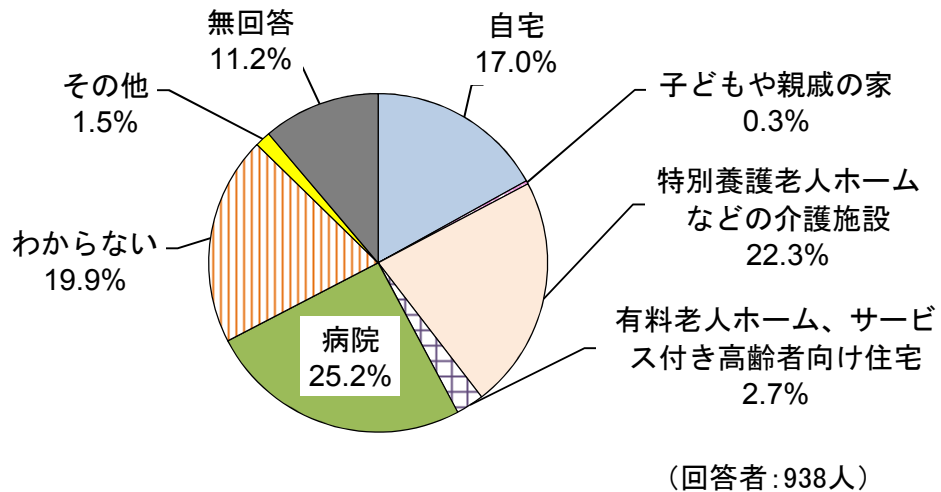
(8) 長期療養の場所について

問7-(8) あなたが脳卒中の後遺症やがんなど、認知症以外の病気により長期の療養が必要になったとき、おもにどこで過ごしたいですか。(1つを選択)



あなたが脳卒中の後遺症やがんなど、認知症以外の病気により長期の療養が必要になったとき、どこで過ごしたいかについては、「自宅」が26.1%で最も多く、次いで「病院」(22.0%)、「特別養護老人ホームなどの介護施設」(21.0%)と続いている。

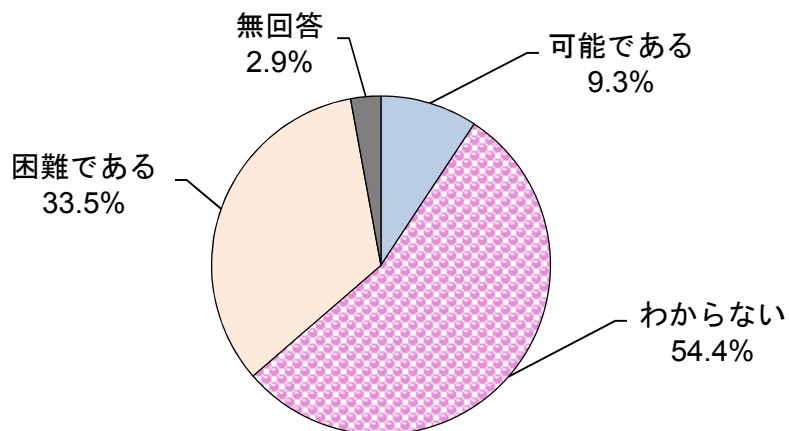
問7-(9) あなたの家族が脳卒中の後遺症やがんなど、認知症以外の病気により長期の療養が必要になったとき、おもにどこで過ごしてもらいたいですか。(1つを選択)



あなたの家族が脳卒中の後遺症やがんなど、認知症以外の病気により長期の療養が必要になったとき、どこで過ごしてもらいたいかについては、「病院」が25.2%で最も多く、次いで「特別養護老人ホームなどの介護施設」(22.3%)、「自宅」(17.0%)と続いている。

(9) 老後の終末期について

問7－(10) あなたやあなたの家族は自宅で最期まで過ごすことができるとおもいますか。(1つを選択)

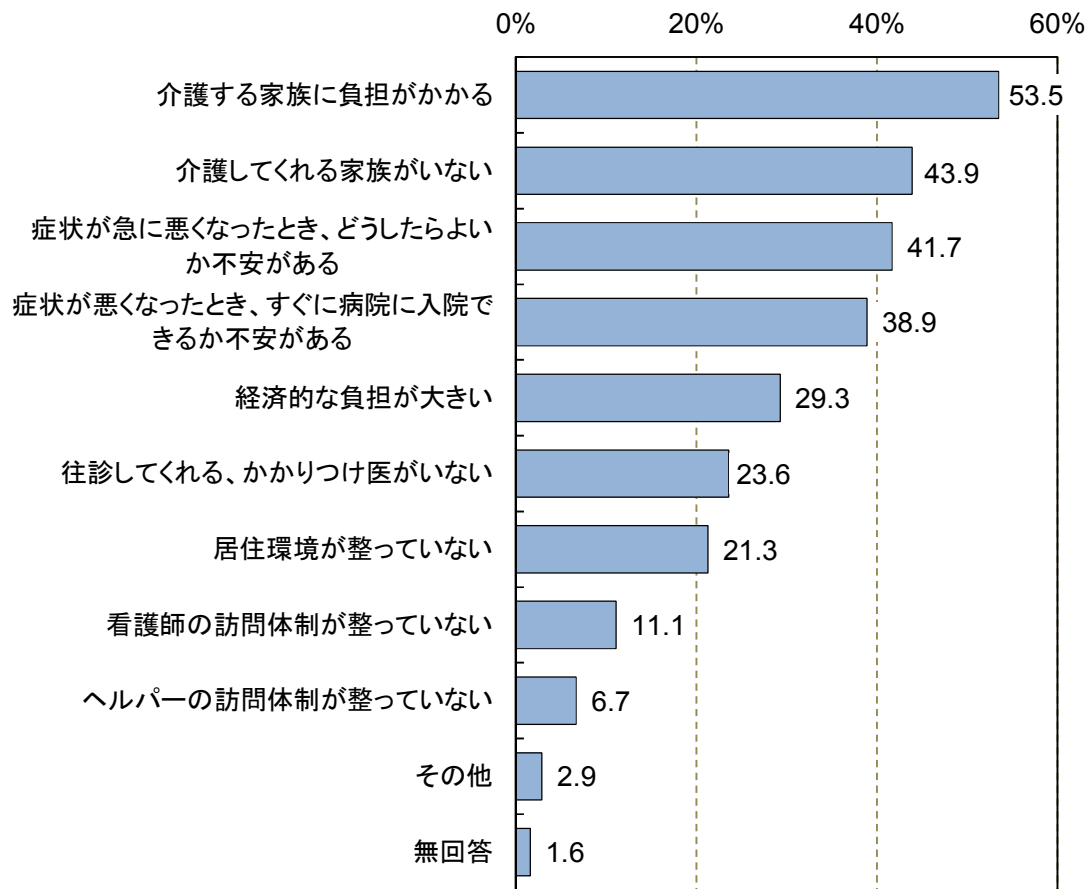


(回答者:938人)

あなたやあなたの家族が自宅で最期まで過ごせるかについて尋ねると、半数以上の54.4%が「わからない」と回答しているものの、33.3%が「困難である」と回答しており、「可能である」という回答は1割程度に止まっている。

問7－(10)－① 【(10)で「3. 困難である」の方のみ】

自宅で最期まで過ごすことが難しいと思う理由は何ですか。(いくつでも)



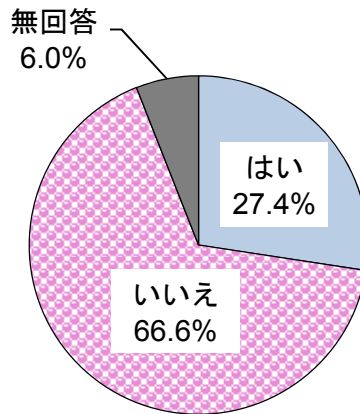
(回答者:938人)

自宅で最期まで過ごすことが難しいと思う理由は、「介護する家族に負担がかかる」が53.5%で最も多く、次いで「介護してくれる家族がない」(43.9%)、「症状が急に悪くなったとき、どうしたらよいか不安がある」(41.7%)と続いている。

9 介護保険について

(1) 現在介護保険または総合事業のサービスを利用しているか

問8－(1) 現在介護保険のサービスまたは総合事業のサービスを利用していますか。
(1つを選択)



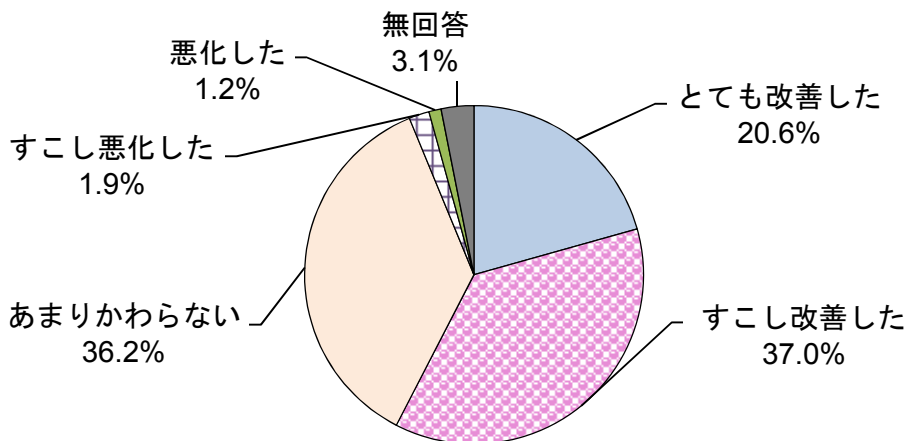
(回答者:938人)

現在介護保険のサービスまたは総合事業のサービスを利用しているか尋ねたところ、「はい」が27.4%、「いいえ」が66.6%となっている。

(2) サービス利用前後での健康状態の変化

問8－(1)－① 【(1)で「1. はい」の方のみ】

サービスを利用する前と現在とでは、健康状態に変化がありましたか。
(1つを選択)

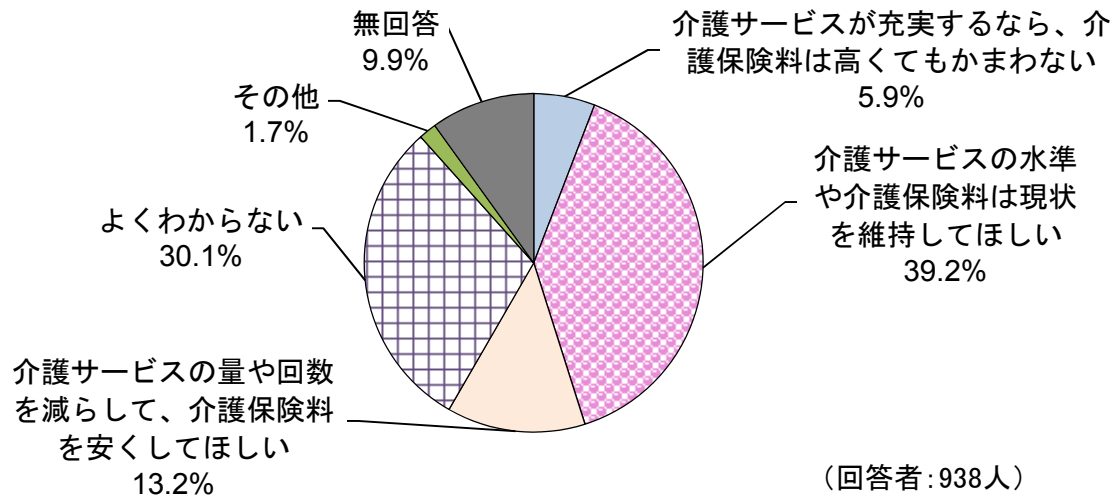


(回答者:257人)

サービスを利用する前と現在とでは、健康状態に変化があったか尋ねると、「すこし改善した」(37.0%)が最も多く、次いで「あまりかわらない」(36.2%)、「とても改善した」(20.6%)となっている。

(3) 介護保険のあり方について

問8－(3) 介護保険料の金額は、介護サービスを利用する人が増えたり、一人あたりのサービス利用が増えたりすると、高くなるしくみになっています。このことを踏まえた上で、介護保険のあり方について、あなたの考えに一番近いものはどれですか。(1つを選択)



介護保険のあり方について、一番近い考えのものを選んでもらうと、「介護サービスの水準や介護保険料は現状を維持してほしい」が39.2%で最も多く、次いで「介護サービスの量や回数を減らして、介護保険料を安くしてほしい」が13.2%、「介護サービスが充実するなら、介護保険料は高くてもかまわない」が5.9%となっている。

男鹿市介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

調査結果報告書

平成29年 9 月

発 行 : 男鹿市 介護サービス課

企画・編集 : 男鹿市 介護サービス課
